

INDEN YAMAMOTO 印傳の山本

印傳の山本

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝氣3丁目8-4

i(印傳)のy(山本)のiとyをモチーフにしたマーク。上原商店(現在の印伝屋上原勇七)で働いていた初代が戦後昭和30年にランドセル製作の会社として山本商店を創業したのが始まり

甲府で3代続く工房。平成30年に2代目山本誠さんが永眠し、2人の息子がその跡を引き継いだ。甲州印傳の伝統

工芸士(総合部門)を有し、甲州印傳の伝統技法による工程を大事にし、一つ一つ工芸士の手によって作られる品々は古くからの伝統技術の継承をしながらも、新しい挑戦を忘れない。

海外の色彩に影響を受けたという色鮮やかで柔らかな鹿革と、数多くの伝統的小紋柄や、オリジナル柄などもこの工房の特徴。

スマートフォンケースや、キャラクター等のコラボレーション商品もあり、幅広い世代に人気。また、名前・家紋・イラストなどをデザインに組み込み、鹿皮の色・漆の色・印傳の柄を選んだ商品を1点から注文することも出来る。



お店と併設された工房、青沼通り沿いにあるのでふらっと気軽に立ち寄れる。

AT



oeuf (ウフ)

江戸 明治 大正 昭和 平成

フェリア店 下石田2丁目29-4

人が卵を差し出すようなロゴマーク。雑貨好きのオーナーが「お店をマークで覚えてもらいたい!」と、デザインした

「oeuf」はフランス語で「卵」という意味で、店内に並ぶ雑貨を「卵」に例え、「わたしは卵を売ります。あなたが卵を孵して下さい」というコンセプトで描かれている。卵を孵すのは皆様で、それをどんな風にも楽しむかは皆様次第!という訳。

店内には「プレゼントを選ぶならoeuf!」と言いたくなるほどかわいくて、おしゃれな雑貨やインテリアを多く取り揃っている。

クリスマスやバレンタインなどのイベントの前にはたくさんの人が買い物に訪れる。ラッピングにもこだわり、プレゼントをもらった人が驚くほどセンスよく包んでくれる。



Feria店は広いフロアに輸入雑貨や家具やインテリア、ステーションナリーなど幅広いジャンルの商品がずらり。見ているだけでも楽しく、時間を忘れてしまう。

SK

PEKINDO (ぺきん堂)

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央2丁目9-18

昭和21年創業。画材用品をはじめ、額縁、コミック用品など、画材用品全般を販売している

ぺきん堂と言えば店内に並べられた画材用品の豊富さがポイントだ。例えば油絵の商品だけでも4社取り扱っており、欲しい物はほとんど揃うと言っても過言ではない。そして画材用品だけではなく、スタッフの知識も豊富などところにも驚く。画材用品でわからないことがあっても、スタッフに聞けばすぐに対応してくれる。まさに至れり尽くせりの画材店。



画材や額縁は1部の商品を除いていつでも20%OFF! 雨の日割引もある。定期的に『画材フェスタ』が開催される。いろいろな画材に触れて、描くこと・つくることを楽しみながら学べる体験型のワークショップだ。

SK

柳正堂書店

Since 1854

柳正堂書店

江戸 明治 大正 昭和 平成

下石田2丁目20-10

店名の由来は「柳町の正しい店」。約160年の歴史をもつ県内で最も古い老舗書店。甲府市内と昭和町に2店舗を展開している

江戸時代中期、柳町(現在の甲府市中央)にて、前身である「伊勢屋」の頃より小間物と書物の販売、木版による出版を始める。その後、江戸時代後期の嘉永7年に商号を柳正堂とし書籍販売を開始(創業)。

地域密着店舗をモットーに、書籍や雑誌、専門書の取り寄せ対応が充実している。また複合型店舗としてカフェ併設の『Books & Cafe』や雑貨セレクトショップ『Style F』併設店舗などを展開。ドールコーヒー甲府岡島店、甲府昭和イトーヨーカドー店のFC運営なども行っている。

柳正堂といえば教科書と言われる程、教材販売の歴史は古く、教科書や教材に加えて山梨県の『官報販売所』としても認可されている。



朝気にあるオギノバリオ店は、雑貨を取り扱う「Style F」とトレーディングカードのプロショップ「CARD BOX」が併設されている。

YT



朗月堂

江戸 明治 大正 昭和 平成

貢川本町13-6

朗月堂の、ポイントカードにも登場するふくろうのキャラクター。明治35年、初代須藤孝平が甲府市柳町一丁目創業した大型書店

明治35年(西暦1902年)、初代須藤孝平が遠縁に当たる日本橋の朗月堂で

働いたのち、帰郷し明治35年に商号を踏襲して柳町一丁目創業した。昭和の初年までは書籍のみを取り扱っていたが、それ以後は書籍の卸、小売りのほか、スポーツ用品、文房具などを販売している。

毎月第一・第三日曜日、午前10:30〜児童書コーナーで「おはなしふくろうの会」(絵本の読み聞かせ会)を開催。

貢川本町の本店ではA館、B館、C館のフロアーそれぞれに検索機が設置されており、本を簡単に探すことが出来る。30万冊の在庫を揃えており、地域になくてはならない老舗本屋。



A TRUCK COMING AROUND THE CURVE. A MOTH AGAINST THE LIGHT.

左)現在の朗月堂書店のロゴマーク。

右)ブックカバーの裏に書いてある英文は「トラックがカーブをこちらに曲がってくる。一匹の蛾がライトに向かっていく」という意味がある。訳を聞いてもなお、なぜこの文章なのか気になる。

AM



春光堂書店

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目4-4

春光堂書店

大正7年(西暦1918年)創業。甲府中心街の銀座通りにある。「春日町に知識の光を発信していく」の概念が店名の由来。ロゴマークはトンボロデザインが手掛けた

春光堂書店のロゴマークは、顔や、矛と盾、天秤など色々なものを連想させる。この広がりのあるデザインには、本のお

もしろさは読んでこそ。本を読んで、読んだ人がそれぞれに感じることができる。春光堂書店は「暮らしに発見の種を」をコンセプトのもと「かんじる」「かんがえる」「つくる」をテーマに本を取り揃えている。

読書会、読書ワークショップ、図書館との連携事業、一箱古本市など、人と人が交流する読書活動にも力を入れている。

読書の素晴らしさを広めたいと、選書は知的で好奇心をくすぐるものばかり。ここに来れば普段は出会わない面白い本を見つけることが出来るかもしれない。

棚には地域の身近な有名人がおすすめする本の紹介もあり、思わず読みたくなる。子どもに本を読ませたいお母さんや本を定期的に購入したい人と手紙のやり取りをしながら、選書するサービスも行っている。



SK

セイビドー

メガネ・補聴器

セイビドー

SINCE 1895

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目15-8

創業125年を超える山梨のメガネ・補聴器専門店。本店の他、ショッピングセンター内等に3店舗を展開中

明治28年(西暦1895年)、柳町3丁目

にて創業。当時から山梨の地場産業、水晶細工の職人であった創業者が、その技術をメガネのレンズ作りに用いるようになった。当時のメガネのレンズは全て水晶を加工して作ったもので、職人の手仕事でしか作り出すことはできなかった。セイビドーは、そのレンズを制作し全国への卸を行っていた。二代目社長は、当時の医療の最先端であるアメリカ、ドイツでメガネ作りに伴う医療知識を学んだ。また三代目社長はセイビドー入社前に日本IBMでコンピュータの技術を学んでいた。その後レンズの受発注システム、顧客管理システムを作り出し業界に革命を起こした。そのシステムは現在でも全国のメガネ店で使用されている。

昭和52年、セイビドーは他店との共同でニューヨークの5番街にキンビーメガネ店と名付けられたメガネ店を出店した。

ニューヨーク5番街といえば東京の銀座に相当するアメリカでも屈指の繁華街であり、高級ショッピング街でもある。



YT

ギョクホー堂

メガネ・補聴器

ギョクホー堂

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目4-7

甲府銀座通りに本店を構える眼鏡店。甲州市塩山店、東京の自由が丘に姉妹店ボズー自由が丘を展開

創業は明治38年(西暦1905年)、水晶

の販売から始まった。当時、水晶は目に当てると良いという話もありよく売れたとか。その後、水晶の販売に加えて光学機器、眼鏡の取り扱いを始め、現在では眼鏡と補聴器の取り扱いをしている。

現在はコンセプトブランド、フォーナインズ、オークリー等、世界中の様々なブランド商品の販売を展開している。また、今では希少価値の高い鼈甲(べっこう)フレームも扱っている。

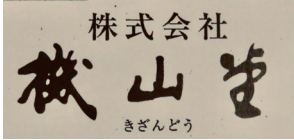
幅広い年代に対応した知識と経験に裏打ちされた接客で量販店とは一味も二味も違う、その人にあったアイテムを提供している。

甲府銀座通り店は昔ながらに親しまれる佇まい。塩山店は「ヌーヴェルブティック・ギョクホー堂」の名でヨーロッパスタイルのブティック。東京自由が丘の姉妹店は「Beaux yeux jiyugaoka」と名付けられたフレンチテイストのショップ。とそれぞれにお店のテイストが違うというのも面白い。



YT

機山堂



江戸 明治 大正 昭和 平成

上町269-1

創業から100年以上の書道用品の専門店。筆、紙、墨等の書道用品や軸装、額装などを取り扱っている

書道用品・水墨画用品・篆刻用品・写経用品の販売に加え、賞状額・写真額・書道額・油絵額・叙勳額など額装や、かけ軸・表装・古いものの仕直しも手掛けている。

思い出の着物で作る掛軸・額・屏風・衝立といったオンリーワン商品製作の提案もしている。

書道における展覧会等のプロデュースも行っており、日本の伝統文化継承の一翼を担っている。



オリジナル商品「機山半紙」は、環境に配慮した商品として牛乳パックの再製パルプ使用。書道における展覧会等のプロデュースも行っており、毎年開催されている山梨日日新聞主催の席書き大会にも協力している。

YT

内藤楽器

NAITO GAKKI

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目17-7

明治35年(西暦1902年)創業の楽器店。丸の内の本店、塩部のピアノ専門店、富士吉田店がある。音楽教室

明治25年(西暦1892年)、創業者内藤八十一氏が甲府市富士川町において理化機械器具の販売・修理の店を開く。その後、明治35年に内藤楽器店を創業。内藤氏は山梨県で最初のピアノ調律技師となり、山梨県・長野県・静岡県

の学校御用達であった。昭和7年頃には、甲州財閥の一人である根津嘉一郎氏が山梨県内の各小・中学校へピアノの寄付を行い、その際、納品等の協力に尽力した。寄付されたピアノは『根津ピアノ』と称せられ、会社に現存していたものは現在、甲府市の教育資料館である藤村記念館に寄贈されている。

本店4階では、大人のための音楽教室として音楽広場「アンダンテ」が設置されている。また近年では音楽教室に加え、乳幼児から小学生まで幅広く対応するヤマハ英語教室なども開催している。



YT

朱宮神仏具店 (しゅみやぶつぐてん)

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央4丁目3-4

創業は平安時代の中期、万寿元年(西暦1024年)と歴史深く、寺院用具・仏壇・神具・墓石・葬祭用具を販売

朱宮神仏具店の歴史は長く、遥か遠く飛鳥時代に、その姓名のごとく仏教の伝来とともに中国へ学びにでかけ、宮廷より「朱宮」の名を拝受された。

明治時代に曾祖父である健治郎氏が、甲府に法衣および寺院仏具の店を開き、五人の兄弟たち全員が仏具店を経営していた。戦中、戦後の一時期に多くが転廃業を余儀なくされたが、その後の積極的な商いで全国に拡大し、仏壇はもちろん法衣や寺院仏具の販売・製造を手掛ける仏具店として確固たる基礎を築き上げた。

店舗は甲府本店に加え、石和店、開国橋西店があり、ネットショップも充実している。



写真は明治36年(西暦1903年)に柳町二開店した店舗と、明治23年の静岡県に出店した際の広告。遠州見附宿、現在の静岡県磐田市に出店していた際の貼り紙広告が、当時から朱宮が仏具全般を商っていたことを物語っている。

YT

甲府銀座 ブラザー

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央4丁目3-12

昔の看板。創業昭和10年、万年筆・シャープペンシル・筆ペンなどの製造から販売までを行う文房具店。昔のブラザー万年筆の看板は今も店内に大切に飾られている。特許取得〜

商品開発に優れ、昭和10年に「浸透印」を考案。実印登録できる柘の印材に万年筆の放電加工技術を応用し、浸透加工したものを全国(含旧満州)で販売(特許取得)。また昭和13年には万年毛筆(現在でいう筆ペン)を考案・発売した。昭和21年の戦後、万年筆製造を復活し、「BROTHER」ブランドにてシャープペンシル・ボールペン・製図器の製造販売を開始。その後、昭和26年には万年筆インクの製造技術を応用し、初のスぺア式水性ボールペン(現在の「ぺんてる社」水性ボールペンの原型)を考案・発売した。

大正5年(西暦1916年)、横近習町に「中川製作所」を創業。その後すぐに「ブラザー万年筆本舗」に改称した。現在の社名は有限会社ブラザーである。社名の由来は実弟との創業から、工場敷地前の甲府カトリック教会のプープ神父より命名されたためという。



YT



山本荒物店

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目12-3

丸の中には「嶋」の文字。岡島百貨店の東側で長きに渡って荒物店を営み、その創業は慶応(江戸)時代までさかのぼる。地域を見守ってきた歴史と人情のお店

荒物とは、ロープ・縄・竹製品・タワシ・簾(すだれ)・葦簀(よしず)・草鞋(わらじ)・ローソクなど、自然の植物

から作った生活道具をさす。そんな荒物を取り扱う山本荒物店の創業は慶応時代までさかのぼる。江戸時代の買物ガイドブック「甲府買物独案内」にも掲載されており、いかに甲府の人々の日常を支えてきたかがわかる。

お店の雰囲気は昔ながらの商店の面影を残し、さらに裏にある建物は昭和22年に建築されたもの、乗っている車は昭和35年型のダットサントラックが現役という辺りにも、物を大切にという店主の信念と人柄を感じることができる。

自然の植物から作った生活道具、今あらためてその価値が見直されているのではないだろうか。長く甲府の街を見つめてきた気さくなご主人との会話もこのお店の魅力。



E1



吉田屋

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝日2丁目17-13

よく見ると、ぶどうの上の葉のように見える部分にはWineの文字。朝日通り商店街に店舗を構える老舗酒屋

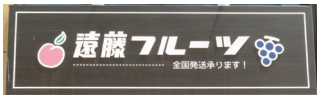
甲府駅北口にある朝日通り商店街に店舗を構え創業90年を超える老舗酒屋。「ワインは山梨県産しかない」と店主が言い切るほどに、山梨産のワインと地酒のみを取り扱うというこだわりの地元根差した酒店である。

ホームページでの全国販売も手掛けており、山梨県産のワインと地酒が多数紹介されている。中でも注目のページは、「山梨の作家とワインや地酒の関係」。太宰治・井伏鱒二・深沢七郎・林真理子・山本周五郎・飯田蛇笏・飯田蛇笏・井上靖といった錚々たる作家が紹介されており作品との関わり、作家の愛したワインや地酒などが紹介されている。

スパークリングワイン「甲府」はこうふ開府500年を記念して作られた。もちろん、一升瓶ワインの取り扱いも。一升瓶ワインは山梨の人には馴染み深い。県外の人々には意外と珍しがられることも多い商品だそう。



YT



遠藤フルーツ

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目8-16

平和通り沿い県庁入口すぐに店を構えるフルーツ店は、もも・ブドウ・柿・干し柿といった山梨県産の果物や県産ワインを取り扱う

フルーツ王国山梨・甲府のメインストリート平和通りに店を構えるフルーツ店。

商品が並ぶ店先には、さくらんぼ・桃・貴陽・葡萄・富有柿・あんぼ柿・枯露柿といった、プロの目利きによって選ばれた季節ごとの旬な山梨の果実と柑橘類・りんご・バナナ等々、多種多様に揃えて販売されている。

中には、受粉や成育管理など栽培が難しく地元でも希少価値の高いスモモの品種の一つである貴陽などの取り扱いもある。

山梨県庁の広い庭園に暮らす猫たちが出入りする猫に優しいお店でもある。

人通りのある立地だけに店頭には並ぶフルーツの種類で季節を感じる人も少なくないだろう。県外の大切な人にここからフルーツを送ってみてはどうだろう。県外の人にお土産として人気の一升瓶ワインなどの取り扱いもある。



YT



京呉服 ふじや

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目14-13

振袖販売・振袖レンタル・七五三、及び一般着物販売・フォトスタジオ運営などを行う老舗呉服店

大正15年(西暦1926年)創業の老舗

呉服店、「二十歳という時間を一生の宝物に」を心掛け、「家族愛」をテーマとする振袖専門店でもある。

「時間をかけて選んだ成人式の振袖が、成人式当日に会場と同じ柄の振袖を着た人とばったり出会ってしまったら、せっかくのハレの日が何となくガッカリした気持ちになってしまう。」そんな事の無いようにとの配慮から、一柄一点の原則を守り、同じ柄がない品揃えを心掛けている。

オリジナル振袖の共同開発もしており、染め加工メーカーから直接商品を仕入れて、最新新柄がいち早くリーズナブルに提供できるサービスを確立している。



YT

玉泉堂



江戸 明治 大正 昭和 平成

東京都中央区銀座6丁目4-5

江戸時代に三日町にて開業。創業200年を超える水晶業者として現在は東京・銀座に店舗を構えている

玉泉堂は、初代より「深輪屋」という屋

号で、五代目の土屋甚右衛門が文政元年(西暦1818年)に甲府市で創業。「深輪屋」は水晶業者の草分けで、文政四年に水晶県外移出のさがけとして江戸で始めて売り出し、関西方面まで水晶細工品の販路拡張に努めた。また、甲府代官の御用達でもあった。

弘化二年(西暦1845年)に屋号を「玉泉堂」と改名したが、「深輪屋」も並称されていた。

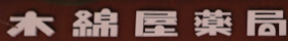
第二次世界大戦の甲府空襲で店舗と工場を焼き尽くされたが、十一代目土屋甚右衛門が苦勞の末に水晶細工品を取り揃え、東京・銀座にて玉泉堂を復活させた。



東京・銀座の店舗は、現在も十一代目が復活させた当時の場所そのままに、十三代目土屋甚右衛門が店に立ち、原石・数々アクセサリ・ぐい呑みなど様々な水晶を提供している。古い写真は甲府の店で明治40年頃のもの。

YT

木綿屋薬局



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目12-4

創業からまもなく150年、甲府市長も輩出し、5代に渡って甲府の「相談のできるまちの薬屋さん」として地域に根差した営業をしている

歴史は江戸時代まで遡る。初代成島治平は江戸から派遣され甲府勤番士

として甲府城に勤めていた。その初代が養子として迎え入れた二代目成島治平(信順)が、武士をやめ現在の山梨信用金庫本店(旧錦町)の地に明治4年(西暦1871年)「有素堂木綿屋」として創業した。元々信順は長野県の薬種商の息子であった。

その後、三代目成島治平(八百蔵)は山梨県で初、日本で最初の薬剤師の一人となる。また、八百蔵は名士として甲府商業会議所の副会頭、第十国立銀行監査役などを歴任。山梨県の代表として薬剤師会にも大きく貢献。昭和2年から昭和6年に第14代甲府市長も務めている。四代目の時期には戦争によりお店や薬が消失したものの、現在の位置にお店を再建。現在は五代目ご夫婦がお店に立つ。

木綿屋薬局の木綿には、「質素・簡素・身近にあるもの」といった深い意味が込められているそう。

今は夜の繁華街のイメージも強い春日あべにゆうであるが、甲府の中心街として様々な変遷があったのだろう。



EI

ジャワ更紗専門店 ケチャ



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央4丁目5-39

インドネシアの伝統工芸品であるジャワ更紗を中心にインドの生地や呉服を取り扱う衣料品店

パティックと呼ばれるインドネシアのジ

ャワ更紗や緋の生地を用いて、和装・洋装・インテリアグッズなどを要望に応じて何でも製作してくれるオーダーメイドショップ。

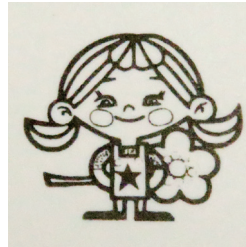
アジアニスト豊かな店内にはパティック・イカット(緋布)・インド生地などの様々な柄が取り揃えられている。イベントなども全国で開催しており、「ジャワ更紗のきもの展」では各種生地の着物や帯、洋服や日傘、巾着小物などの提供がされている。

伝統的な日本の足袋も、生地の柄によってオリエンタルマジックともいうべき全く新しい価値を生み出している。アイデア次第で様々なオリジナルグッズを作ってもらえるのは嬉しい。



YT

オリオンフラワー



江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目21-22

オリオン通りにお店を構える昭和20年創業の老舗花店。シンボルと看板の「花」の文字は、どちらも店主の保坂勝美さんが考案したもの。切り花や花鉢に加えてフラワーギフトも多数取り扱っている

昭和20年、現在の店主で2代目の保坂勝美さんのお母様が創業した。2代目の勝美さんは、AIFD・米国フラワーデザイナーズ正会員/フラワー装飾職業訓練指導員/国家検定一級装飾技能士の資格をもっており、奥様・娘さんと家族でお店を営んでいる。

奥様の明るく気さくな人柄にリピーターも多く、お店のみならずオリオン通りまで明るくしているように感じる。



味のある看板には個性的な「花」の文字。隣のステッカーには「世界中の花々」の意味のフランス語が。角地に建つオリオンフラワー、横断歩道で立ち止まると花の香りに癒される。

YT

河野スポーツ



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目1-5

ラグビーボールの形にスポーツの躍動感を感じさせる文字。創業は昭和23年、桜町にある老舗のスポーツ用品店

中心街の桜通り商店街にお店を構え、地域に根ざしたスポーツ用品店として、

スポーツのことはもちろん、中心のお店のことや街のことも詳しいお店。

学校の体操服はもちろん、部活動で使うスポーツ用品などの取り扱いも多く親子で訪れるお客さんも多い。

店頭では見かけないメーカー商品の取り寄せなどにも対応してくれる。

最近ではグラウンド・ゴルフのグッズも人気だそう。



老舗ならではの豊富な知識と細やかな対応。店主の柔らかな人柄に、買うならここで。と思うのも納得の、商店街らしい魅力のあるお店。

YT

キタムラ時計店



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央4丁目3-25

創業昭和4年、時計の他にメガネ・宝飾・補聴器などを取り扱うお店。お店の人のあたたかい人柄も魅力で、いつも身につける大切なものを任せたいくなる

甲府の中心街、岡島や澤田屋などの老舗が立ち並ぶエリアで、長年に渡り人々に愛されている時計店。

「毎日または、永く愛用するものだから…良い物を。大切な思い出と共に、過ごしたいから…。そんなお客様のお手伝いを、私共にさせて下さい!」をモットーに、時計の他、メガネ・宝飾・補聴器などを取り扱っている。お店の方の温かい人柄も魅力のお店。

特徴的な文字は、山梨県立美術館で開催された「デザインあ展」にも紹介されていた。



YA

Rigel (リゲル)



江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目13-6

平成30年にオープンしたジュエリーの産地・甲府で活躍する作家達が運営するジュエリーショップ。昭和時代の喫茶店をリノベーションして造られた

山梨のジュエリーを裾野から盛り上げること、作家の自由な活動を応援することを目的に、甲府クラフトラボで出会

ったジュエリークリエイター3人がジュエリーと革のクラフトショップとして立ち上げた。令和元年に創業者の一人である店主が志半ばで突然の他界。現在は創業者の遺志を継ぐ2代目店主の元、甲府の街に温かな光を灯している。店名「Rigel(リゲル)」はオリオン座の一等星の名前で、冬のダイヤモンドを形成する恒星の1つ。



店番は作家の日替わり制となっており、作家さんに直接会えるのも魅力。店内では日によって生花の販売やパースタイルのフラワーアレンジメント、イベントなども行われ、ハンドマッサージの提供やカフェなど様々な体験もできる。

YT

おもちゃのさいとう



江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目1-8

平和通り沿い県庁近くにあるおもちゃ屋さんの看板。昭和27年に創業、70年近く時代に応じたおもちゃを販売してきた老舗おもちゃ店

終戦から7年、戦後間もない昭和27年におもちゃのさいとうは創業した。

戦時中は甲府も空襲で焼け野原となった。そのような中からの戦後復興最中、戦後の食料難がようやく解消されつつあった時代である。つらい経験をした子どもたちにとって、おもちゃはどれほど輝いてみえただろう。そして、そこから70年近く。半世紀を過ぎてなお、続いているおもちゃ屋さんである。けっして広くはない店内には新旧入りまじって、所狭しとたくさんのおもちゃが並ぶ。

「おもちゃは入れ替わりが早いからね」と、店主が言うように、人気が集申しやすく入れ替わりが早いおもちゃを取り扱って続けていることも本当にすごいことだと感じる。

令和2年、最近の人気は「NintendoSwitch(ニンテンドースイッチ)」だそう。

いったい、どれだけの子どもや大人が、この店内で目を輝かせ宝物を手に入れてきたのだろう。たまには童心にかえって足を踏み入れてみてはどうだろうか。最新のおもちゃから昔欲しくても買えなかったもので、思いがけない出会いが待っているかもしれない。



EI

大森水晶

大森水晶

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目7-16

まもなく創業100年となる水晶の専門店。山梨県の宝飾産業の功労者大森文衛が創業し現在も進化を続けている

株式会社大森水晶は大正13年(西暦1924年)に大森文衛が創業した水晶

の専門店。大森文衛は、昭和37年に黄綬褒章を授与され、山梨県の宝飾産業の功労者として知られる人物。

大森水晶は、山梨の宝飾産業の基盤となった水晶の研磨の高い技術を用いて、様々な水晶宝飾品を生み出している。その職人技は全国の百貨店催事などでも人気がある。また、近年では、広がる海外市場に目を向けたwebなどによる発信も行なっている。

古名屋ホテルの隣にあるお店のショーウィンドウには、シーズンごとにハイセンスなマスキングテープ装飾がされ、道行く人の目を楽しませてくれる。

サンリオのキティとのコラボ商品なども展開している。近年は4代目がデザイン加工した、原石をくり抜いたリングも人気。



E1

武藤呉服店

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目21-7

甲府中心街1番の老舗呉服店。心のこもったケアで甲府の人々に素敵な着物を伝えている

大正7年(西暦1918年)創業、令和2年

に創業100年を迎える呉服店。甲府中心街では一番古い呉服店と思われる。成人式などの着物を誂(あつら)えるお手伝いはもちろん、着方を伝えることやアフターケアを大切にしており、代々受け継ぐ日本の着物の文化を甲府で支えている。

「着物を好きな方、着物に興味がある方が、気軽に集える店にしたい」という店主の思いが伝わってくる。

着物の敷居を高く感じる人は、まずは浴衣を購入し、着方を教えてもらうのはどうだろう。店頭には、昔ながらのはんてんや和柄を取り入れた洋服もあり、着物を着る機会がなくなっても取り入れられそうなものも。



E1

六曜館骨董店

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目15-15

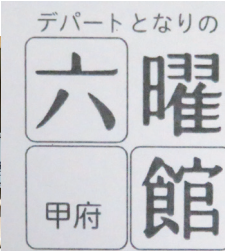
昭和51年創業の甲府の草分けの骨董店。アンティークの魅力を甲府から発信している

岡島百貨店の隣の骨董店。

店主の成澤秀仁さんが古美術商の仕事をしたのは20代の頃、老舗の骨董店が立ち並ぶ東京青山だそう。その後、甲府に戻り昭和51年に骨董店「六曜館」をオープン。山梨県内は元より、県外から多くの方が訪れる。店内にはアンティークのランプや陶器、書物、様々なものがところ狭しと並ぶ。

成澤さんは山梨に伝来・由来のものを集めることをライフワークにしているようで、甲府の昔を知ることができる資料も多数所有。甲府における骨董品収集の草分け的存在でもある。

美しい骨董品に数々は一見以上の価値あり!骨董品の世界に一歩足を踏み入れてみるのはいかがだろう。新しい知見が広がるかも。敷居が高いと感じる人は、同系列の六曜館珈琲店やまんじゅうかから挑戦してみるのをお勧めしたい。



YT

にもんじや

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目1-11

化粧品と服飾雑貨を提供する老舗店。銀座通りの本店と、駅ビル内のセレオ甲府店を展開

「にもんじや」の店名は、かつて甲府市

八日町にあった薬種屋「二文字屋」をルーツとしている。この本家次男である古谷甚甫さんが明治36年(西暦1903年)に現在の地で化粧品小売業を開業。また二代目の敏雄さんの時代、昭和5年頃には、女優や宝塚のスターを招いた斬新な宣伝戦略を打ち出して店先に行列を作るほどの活況を収めた。三代目の公利さんの時代は、戦後復興の高度成長時代を迎え、隆盛を誇った。その後、数々の店舗展開を経て、今も老舗の暖簾は受け継がれていく。社訓「お客さま一人ひとりと、誠実に向き合う」を守り続ける専務の公宏さんは四代目となる。

昭和の高度経済成長時代は、華やかな銀座通りが輝いていた。にもんじや本店は大みそか深夜でも客足が途絶えない程の盛況であったという。



YT



TODAY RUNNING COMPANY 道がまっすぐ

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目1-25 甲州夢小路内

甲府駅北口からすぐの街と山をつなぐランニングショップ。全く走れない人も、もっと走りたい人も。トレイルランニングをメインとしたランニングショップ

店内には驚くほどデザイン性と機能性を両立したランニングウェアやシューズが並ぶ。しかし、只のおしゃれなお店とあなどることなかれ、店長自らがトレイルランナー・トレイルランのコースディレクターでもあり、ランニングカルチャーの伝道師的存在といっても過言ではないような人。そんな店長からシューズの選び方や走り方、沢山のことを学ぶことができるお店なのである。お店を起点としたランニングイベントなども行われ、ランニングカルチャーを体験できたり、ランニングコミュニティで仲間ができたりと魅力的な拠点となっている。県外から訪れるお客さんも多い。ネットショップも充実しているので、デザイン性と機能性の高さを確認してみてもどうだろう、新しいきっかけが待っているかもしれない。



「道がまっすぐ」のSNSやブログには、店長のこれでもか!というほどのトレイルラン愛と、お客さんにトレイルランの良さを知って欲しい!!という溢れるほどの思いが感じられる。ここで走ることを始めたら、その魅力を存分に感じられそう。

EI

フカサワ宝石

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目2-15

岡島百貨店の目の前にある宝飾店。ロゴマークの作者は不明。数々のオリジナルデザインを作り上げ、現在も更なる製品の開発を志している。

作られた時代を感じるさせるレトロなデザインのロゴマーク。石の文字の中にきらりと光る輝きのデザインがまたお洒落。イニシャルの“F”の周りは宝石をイメージしたトリミング。現在の店舗を構えた際に作ったものであるようですが、詳細は不明。

創業者深澤喜一は大正9年(西暦1920年)に印鑑の材料として水晶研磨の工場を始め、昭和28年には山梨装身具商会在現在の地に開いた。現在はフカサワ宝石として、伝統カットの良さと格式をオリジナルデザインに込め、宝飾文化を多くの人々に伝えるよう尽力している。



左写真はフカサワ宝石の高い技術を持ってしてのみ作ることができる水晶砂時計。右写真は平成元年、皇室の雅子様ご来県記念に作ったオリジナルデザインロイヤルフラワーネックレス。水晶の輝きがより一段と映える上品なデザイン。

SK

花国



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央4丁目4-17

甲府市中心街のペルメ桜町にある花屋さんは創業から70余年。伝統と流行を融合して花を届ける

現在お店を営んでいる三代目の祖父が戦後まもなくに競輪選手と花屋という異色のダブルスタンダードで創業した。祖父は遠く静岡まで花を切りに行ったり、電車で東京に販売に行ったりと働き者だったという。花と真摯に向き合う姿勢を継承しながら、生花・プリザーブドフラワーに加えアートフラワー ブーケ・コサージュなどの様々なフラワーアレンジメントも提供。店内でのフラワーレッスンは個人でもグループでも対応してくれる。



「花の持つ生きる力(喜び)を日々感じながら商いをしていく」と語る三代目ご夫婦の活動は、クリエイティブに包まれている。ホームページに掲載された様々な花の作品は、写真自体もアート作品のように印象的である。

YT

フジヤ化粧品店

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目20-20

甲府市中心街の、「春日あべにゅう」にあるコスメ&ランジェリーショップ。創業から73年を迎える

店舗正面の店名「フジヤ」のロゴマークは、クジャクが描かれている。これは店舗設計士の先生が、お店をイメージしてデザインされたもの。

戦後、現在の地に「おしゃれの店」として創業した。化粧品や服飾雑貨を販売するのみではなく、「特殊メイク体験」などの日常ではなかなか味わえない「体験」を提供してくれる。ハロウィンの時期や特別なパーティーの時には真っ先に相談したい。

レトロ感あふれるお店のロゴのステッカーはカラフルな色どり。クジャクのマークのみのシンボルステッカーと共にマニアにはたまらない貴重なアイテム。



YT

サイキ宝飾



江戸 明治 大正 昭和 平成

上石田4丁目16-8

創業昭和57年のパール&オリジナル
ブランド企画販売メーカー

社訓は「競争・協調・そして挑戦」、経営理念として「企業の成長」「利益追求」「社会貢献」を掲げる。

日本ジュエリー大賞などを受賞の美術造形作家でジュエリーデザイナー市川治之氏の作品も多く取り扱うほか、デザインが美しく上質なジュエリーを取り扱う。また、現代に合ったパールのリフォームなども提案しており、ホームページでは金具の交換などが具体的に提案されている。



社会貢献として、可愛いリングピローの販売を行いその売上金を寄付する活動を行っている。

美しいデザインが紹介されているホームページは見ているだけで華やかな気分になる。



10

ワインズ新富屋



江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目29-2

甲府駅から数分の平和通り沿いにある山梨県産ワインはもちろん、世界中のワインを取り揃える圧巻の品揃えを誇るワイン専門店

店内に一歩足を踏み入ると、外から見た以上に沢山のワインが並べられ、ひとつひとつのワインボトルに付けられた、蛍光色の札が鮮やかに目に映る圧巻の光景が広がる。

ワインズ新富屋は、明治40年(西暦1907年)創業の老舗酒屋で、現在三代目。ワインに特化し、世界のワインから山梨県産ワイン、ヴィンテージワインから新しいワインまで取り揃える。高級なワインも多数あるが、食事に合わせる手頃な値段のワインなども購入できるので、ワイン上級者でなくとも立ち寄りたくなるお店。甲府に来たら必ず立寄るといふ県外の人も多い。通信販売なども行っているが、豊富な知識をもつ店主に相談しながらその日に飲むワインを購入する楽しみは店頭ならではの楽しみ。

2階には、直営の飲食店「葡萄屋」があり、カジュアルにワインや食事を楽しむことができる。もちろん、ワインが豊富なのでこちらで友人と語りながらお気に入りのワインを探してみるのもいいかも。



E1

かいや



江戸 明治 大正 昭和 平成

下曽根3330-1

鮑の煮貝で有名な食品メーカー。山梨県食品工業団地に本社兼工場を置き、鮑を主に貝類の加工を行う

虹色の貝殻のロゴマーク。鮑の貝殻の内側が光に当たるときらきらと輝く様が、七色の貝殻のデザインで表現されている。また、世界の七つの海から採れた鮑を加工していることも表しているそう。かいやのモットー「贈るよこび。」この言葉には、鮑の煮貝を受け取った側が喜ぶ姿を、贈り主も想像して喜びを感じてほしい、という想いが込められている。贈り物を選ぶ時間は特別なひととき。そんな大切な瞬間のために、かいやは見た目の美しさから味に至るまで、上質な「鮑の煮貝」を一粒一粒丁寧に作り上げている。

日本ギフト大賞2016 都道府県賞を受賞した黒鮑の煮貝。八海醸造グループ魚沼新潟物産とのコラボ商品。あわびの日本酒浸し、あわびの酒粕味噌漬、あわびの醤油麹漬、国産パイ貝旨煮の4種を販売。



SH

みなと



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央3丁目11-20

創業天正12年(西暦1584年)、鷹の羽紋を掲げ甲州伝統の煮貝を守り続ける老舗

天正12年(1584年)みなとは、魚屋として創業。屋号の「みなと」は、3代目飯島与八の一字をとった略称。みなとの煮貝は、日本近海で収穫された天然黒アワビを使用しており、天然物だけが持つ豊潤な肉質と磯の香りにこだわりをもっている。国産黒あわびは年々その数を減らし、大きく身の締まったあわびの入手は大変難しくなっているそうだが、一貫して国産黒あわびを使用、昔ながらの製法で伝統にそった味づくりを追求し、現在11代目・12代目はその伝統と味を守り続けている。

時代とともに少しずつ変化しながら、代々引き継がれてきたみなとのパッケージデザイン。噛み締めるほどに口に広がる旨味。近年は科学的にもその旨味が証明されているそう。



E1



網倉本店

江戸 明治 大正 昭和 平成

相生1丁目11-10
丸の内店 丸の内3丁目29-5

堂々とした文字が目を引く看板、この文字は有名な書家の先生によるものとか。日本茶や中国茶に加えて、はぶ茶など様々なお茶や海苔を扱う・お茶と茶道具の専門店

お茶の専門店として静岡県の掛川で取れた濃い味と色の深蒸し茶、さらりとした喉越しの鹿児島島の緑茶を看板商品とし、味・香り・色にこだわった銘品を揃えている。

創業以来の看板商品の「玉翠」、「掛川茶」、鹿児島産の「ゆたかみどり」をはじめ「黒豆入抹茶入玄米茶」や「どくだみ健康茶」など種類豊富な数多くのお茶を提供している。また季節限定で抹茶チョコレートの販売もしておりしっかりとした抹茶の味わいの品は人気が高い。

看板があるのは網倉本店の丸の内店。網倉本店では、業務用の煎茶、家庭用の煎茶といった需要ニーズに分けた商品も多数あり、中でも業務用のほうじ茶はうなぎ屋、天ぷら屋の名店からも長く愛されている。



YT

ひしわ園

江戸 明治 大正 昭和 平成

太田町4-7

菱和園は昭和27年創業。山梨の人々においしいお茶を届けたい、という思いから始まった会社。ロゴマークは創業者の小尾和男氏がデザインしたもので

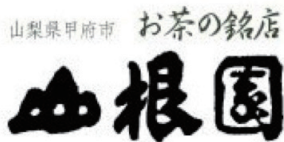
菱形の中に「和」の文字があるロゴマーク。菱形は武田菱をもとに、菱のラインを交差させオリジナルのデザインを

考案した。「和」の文字は創業者である小尾和男氏の名前からとったもの。菱和園はおいしいお茶を届けるのはもちろん、お茶のある暮らしや楽しいお茶の時間を提案する会社であるために、茶畑の管理や、2017年からはTY Paper(ティーペーパー)という冊子の発行も始めた。茶畑では茶葉に触れることでお茶を更に身近に感じてもらったり、冊子ではお茶のある風景や楽しいお茶の時間をテーマに、各々のお茶の世界感を提案、紹介している。

深蒸し茶の名産地である静岡県掛川市の一番摘み茶を使用。こだわりの一品は「なごみ」シリーズの最上級品。



SK



山根園

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目16-18

甲府駅のほど近くでお茶の製造・販売を営む昭和21年創業、創業から75年のお茶屋さん。数々の銘茶を取り揃えており、お茶・お茶道具に加え、海苔、干し椎茸、お茶菓子なども取り扱う

毛筆で書かれたロゴマーク。山の文字は甲骨文字のように、連なった山の絵で表されている。「山根」は創業者の出身地に由来するそう。自ら納得のいく

お茶づくりを追求する山根園。まずは農家の生産に携わることから始めた。そして丁寧に仕上げたお茶を独自の方法で低温保管・ブレンド。常に鮮度の良い茶葉を消費者に届けている。

こだわりのお茶の葉は、静岡県安倍川上流「谷田」(やぶ北茶発祥の地)で生まれた。肉厚で柔らかく、主力とする深蒸し茶の製法の加熱時間に耐えられるだけの品質を持ち合わせる、まさに優良な茶葉なのだそう。

おすすめの「掛川深蒸し茶」。茶葉が細かく粉が多いため、カテキン・テアニン・ビタミンC・食物繊維・ミネラルなどの健康成分を多く摂取することができる。



SK



自家焙煎珈琲工房 キング珈琲

江戸 明治 大正 昭和 平成

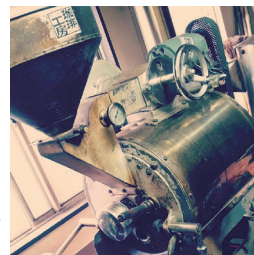
中央1丁目20-5

創業から60年余り、甲府の喫茶店を自家焙煎したコーヒー豆の卸業で支えてきた。喫茶店ではなく珈琲豆を販売するお店

先代がはじめたコーヒー豆の卸業は、甲府のまちのコーヒーの歴史を支えてきた。生豆からその豆、その卸先に合わせた焙煎をおこなっていくキング珈琲。フェイスブックには、ひたすらという程にローストした豆の写真が掲載されている。それは言葉以上に饒舌に、大将の新海さんが心をこめて、こだわり抜いてローストしていることの証のように見える。「高くて美味しい豆を出すだけでは卸に向かない。購入しやすい価格でも出せるよう豆の美味しさをどれだけ引き出せるかが問われる」と新海さん。長年の経験に裏打ちされた絶妙な焼き加減、職人気質の新海さんがローストした豆は実に美しい。キング珈琲は小売りも行っている。タイミングが合えば試飲ができ、自分好みの見つけかたを教えてくれる。この見つけた自分好みを定番として求めに来る常連さんも多い。

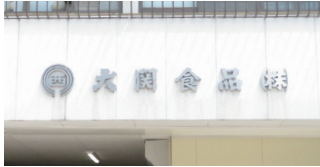
写真の焙煎機は歴代5代目で、20年以上活躍しているそう。

日々の一呼吸、自宅で喫茶店のような上質タイムを過ごしてみるのもいいかもしれない。



EI

大関食品



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央5丁目3-15

元の屋号である西川商店の「西」の文字が使われたロゴマーク。名称が変わっても繋がる想いは残されている

大正3年(西暦1914年)に食品卸問屋、及び食酢製造業の西川商店として、創業。昭和38年、大関食品有限会社に組織変更した。創業106年。現在は食酢製造販売の他、こだわりの詰まった生もずくの製造販売で人気を博している。生もずくは沖縄産を使用、水揚げに立会い厳選する徹底ぶり。南アルプス天然水を使用するなど良いものを大切に使っている。海のない山梨でもずく?という声も出そうだが、煮貝のように海がない山梨だからこそ工夫を凝らしてきた歴史を考えると、納得できる。

現在主に使用されているロゴマーク。百貨店などでも引き合いがある人気の生もずくは、作り続けられてきたそのお酢によって美味しさを増す。



YA

川口屋豆腐店



江戸 明治 大正 昭和 平成

城東3丁目11-13

創業昭和25年の豆腐店。現在は三代目がお店を受け継ぎ、昔ながらの手作り製法を守りつづられている

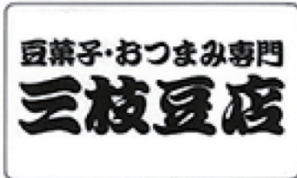
修行を重ねた初代当主が、城東にて創業した店舗はかつて山梨市にあったという。現在は三代目が伝統を守りつづ新しい豆腐づくりに励み、「寄せとうふ」、「城東豆腐」などを生み出している。「城東豆腐」は、見た目が木綿豆腐のようだが絹のような優しい口触り。また大豆の味と香りがしっかりと伝わってくる豆乳も人気が高い。商品のパッケージや看板の左上に記されている屋号のロゴマークは、山の冠に清の文字が書かれているもので、山の清らかな水の意味だろうか。

三代目は店舗での新しい豆腐づくりに加えて、車に商品を積んでの引き売り(行商)も行っており、一人一人のお客様に手渡しできるようにと甲府市内に出かけている。



YT

三枝豆店



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央4丁目4-20

節分の豆をいれる様子は甲府の季節を知らせる風物詩。明治36年(西暦1903年)に創業した老舗の豆菓子・節分豆などを扱うお店

千葉県や北海道の契約農家で収穫した豆を、その日の陽気によって煎り加減を変え、毎日煎って店に並べる。そんな細やかな職人技を昔から引き継いできた老舗店。毎年、節分前は豆を煎る様子を撮影しにテレビ取材が訪れる。噛むほどに味わいのある職人の煎りたての豆はもちろん、砂糖がけした豆も絶品。素煎り・味付け・砂糖がけの3種類の味を楽しめる落花生、大豆の豆菓子・節分豆、黒豆の豆菓子やかりんとう等おやつとしてもおつまみとしてもいただける、優しくて健康に良い豆菓子を味わってみてはいかがでしょうか。

日常の嬉しいものから贈り物用まで様々な種類を取り揃えている。地域の老舗が作る豆菓子は、贈答品にもぴったり。



AM

武田牛乳の“まいぼん”



江戸 明治 大正 昭和 平成

上条新居町106(甲府工場)

誕生して60年以上、山梨の酪農と共に歩んできたゾウさんの印。もともと名前はなかったようで平成24年に「まいぼん」の名前が決まった

県の要請で牛乳製造をスタートしたのは甲府一帯に酪農が定着した昭和23年。トレードマークのゾウさんは昭和29年に登場した。当時、市立遊亀公園附属動物園にやって来たタイ生まれのアジアゾウ「ゆり子」の大人気を受けて採用したという。まいぼんの瓶装乳やヨーグルトは、学校給食・家庭宅配がメイン。小売りは一部に限られているため珍しい商品としても人気が高い。武田食品では地元が活性化する「地産・地製・地流・地消・地活」の五つの地をテーマにした商品開発・販売など、山梨の魅力と価値を発信する活動を行っている。

河口湖の湖畔にある、まいぼんがメインキャラクターのT's cafe。武田牛乳を使用した濃厚なソフトクリームやミルクプリンを初め、インスタ映えしながら本当に美味しいスイーツやドリンクがいただける。スーパーで見つけられなかったらラッキーな100%山梨県産の武田牛乳で作られた武田牛乳アイスも人気。



AM



よっちゃん食品工業 カットよっちゃん

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央市高部1921-1

甲府市内で事業を開始した駄菓子屋の定番人気商品「カットよっちゃんシリーズ」近年はゴルフの渋野日向子選手が食べていたことで全国で品切れ続出となる現象も起こった

昭和34年、日本経済が太平洋戦争敗戦の荒廃期から立ち直りを見せ始めた年に「よっちゃん食品工業株式会社」

の前身となるスルメ足加工の個人事業を甲府市内でスタート。以来50年余「イカ」一筋に山梨県を本拠としてイカ加工食品メーカーとして現在に至り、東北～九州まで広く日本全国に工場と営業所を持つ。

近年はゴルフ練習場の運営や不動産事業も経営。創業者兼現会長の金井芳雄氏は、昭和50年に2250万円でロールス・ロイス・コーニッシュを購入し、これを金色に塗装し直し、さらにフロントに「よっちゃん」のキャラクターを描かせた。この高級車は会社の宣伝のために大活躍したという。



YT

うし奥



江戸 明治 大正 昭和 平成

相生1丁目4-19

昭和2年創業の老舗お肉屋さん。県内を中心とした卸や、お肉の販売、できたて弁当やお惣菜なども扱う

店頭ショーケースには沢山の種類のお肉が並び、富士桜ポークやワイントン、甲州ワインビーフなどの山梨県産ブランド肉を初め、国産・外国産など様々なお肉の良さを活かして、美味しくリーズナブルに提供してくれる。飲食店からも信頼されるお肉屋さん。定期的に行なっている大変お得な売りだしも必見。

卸の配送トラックには、うし奥のロゴマークと、取り扱っているワイン豚の個性的なロゴマークがあり、見かけたことのある人も多いはず。

お惣菜やお弁当の種類も多く、ひとつひとつが手作り。リーズナブルで満足度が高いと人気。特注弁当にも柔軟に対応してくれる。揚げ物は注文後に揚げてくれるので揚げたてが食べられるのも嬉しい。



E1



鳥桂肉店

江戸 明治 大正 昭和 平成

北口3丁目5-4

甲府駅北口の路地にある鶏肉専門店。鶏肉・焼き鳥・唐揚げに加えて揚げたてのコロッケやメンチ、ハルマキが人気

創業は昭和38年、オリンピックの前年に開業。昔ながらのお肉屋さんという

たたずまいで、夕方4時から営業。販売する全て手作りのコロッケやメンチカツなどの総菜が人気でリピーターが多く訪れる。もちろん、きれいに捌いた鶏肉をはじめとした生の肉も買うことができる。

各種総菜や焼き鳥・モモ焼きなど店内で作られているものは電話予約を受け取り、出来立てを味わうことができる。甲府の名物料理である「甲府鳥もつ煮」のB-1グランプリの際には食材の提供～協力をしていた。



注文してから揚げたてを提供してくれるコロッケやメンチカツなどの各種総菜は、クセになるおいしさで店で調合されている「秘密の油」に理由があるという。

YT

鳥林 (とりりん)

江戸 明治 大正 昭和 平成

国母4丁目4-18

創業125年を超える老舗食肉加工販売会社。鶏肉はもとより牛・豚に加え特殊肉として鹿・猪・キジなども扱う

明治28年(西暦1895年)に雑穀商・上海鶏卵及び韓国特殊鳥取扱業として創業。昭和49年に株式会社鳥林となる。

いまでは甲府を代表する名物料理である「甲府鳥もつ煮」は、当時大量に捨てられていた鳥もつの利用を考え、昭和25年に鳥林三代目店主が「そば処奥藤本店」の二代目店主に相談し、奥藤本店の調理担当者(とんかつ力初代店主)の試行錯誤により生まれた。「老舗の味・鳥林鳥もつ」はオリジナルレシピの「甲府鳥もつ煮」として販売されている。

昭和49年に法人組織となった株式会社鳥林は、すでにこの時代に消費者第一を掲げ、顧客満足度の高い「びっくり市」を開催していた。



YT

ドイツパン工房 Wald (ヴァルト)

江戸 明治 大正 昭和 平成

上石田3丁目3-15

ヴァルト (Wald) はドイツ語で「森」を意味。ロゴデザインは、交友のある四万十市在住の地デザイナー迫田さんからプレゼントされたもの

店長は大手企業に勤めた後、25年前に百姓のサポートをしたいと思い上帯

那町でパン屋をオープンした。しかし、パンを作り続ける中でドイツのプロートというパンのシンプルなおいしさに感銘を受け、ドイツでのプロート修行を熱望。その熱意が様々な人を動かし、修行先が決まり、営んでいたお店を廃業して修行を敢行した。そして、18年前にオープンしたのがヴァルトである。

ヴァルトのロゴについて「オープンの準備を進めていたら、ある日ロゴが贈られてきた」と店長。交友のある地域を大事にするデザイナー迫田さんが、実際にパンを食べてイメージしたデザインを贈ってくれた。そのお礼にと定期的にパンを贈っているそうである。人の縁を大切にしている店長の人柄を感じさせるエピソードである。

ヴァルトのパンは、身土不二の考えを元とし、ドイツパンでありながら地元や国産の農産物を積極的に利用、八ヶ岳や富士山から採った酵母を使うなど、この風土あってこそ味わえる味となっている。

ヴァルト (Wald) という言葉について、店長は「生き物の出所、癒される場所。山梨を自然豊かな場所にしたい豊かな場所にした」と語る。



E1

手仕事パン工房 榮や

江戸 明治 大正 昭和 平成

緑が丘2丁目7-10

緑ヶ丘公園のすぐ近く和風モダンな建物が目を引く、売り切れ終了。平成20年11月創業の人気パン屋さん

暖簾が掛けられた和菓子屋のような外観。その外観が物語るように、榮やには、丁寧な手仕事で、素材にこだわり、山梨県産の小麦や和の食材を使ったオリジナルのパン達が並ぶ。

評判の「十割米粉パン」はグルテンフリーの100%米粉パン。もちもちと弾力のある米粉の食感が人気の逸品。他にも、手作りの甘酒が練り込まれたパンや、味噌を使ったパン、野菜菜おやきのパン、塩昆布とクリームチーズのパンなどなど、その時々で様々なパンを作っている。

朝は8時に営業を開始し、パンが無くなり次第閉店で、午後には品数がぐっと減ってしまうことも多い。電話でパンの取り置きをお願いすることも可能なので、お目当てのパンが決まっていれば予約がおすすめ。



E1

メンチカツサンドやコロケサンドは、中身のメンチカツやコロケまで自家製というこだわり。

秀月ベーカリー

江戸 明治 大正 昭和 平成

湯村2丁目4-27

定番のパンが並ぶ、初めてでも懐かしい街に溶け込む老舗のパン屋さん



常盤ホテルの東側の道を南下すると右手に、すっかりと街に溶け込んでいる秀月ベーカリーが見えてくる。レトロで可愛い文字の並ぶお店は、実は三代続く創業60年の老舗、以前は現在の山梨県防災新館の近くに支店もあったそう。

お店に入ると、いつもにこやかでお話好きの奥様が対応してくれる。お店に並ぶパンは、ザ・定番!と云いたくなるような懐かしく外さない安定のパンたち。ご主人が心を込めて、丁寧に変わらせず作り続けられているパンの美味しさは、今、この味が食べられること、それ自体がとても素敵なお店のよう



外観・店内ともに、レトロかわいい文字や看板があるので、訪れたらぜひ目をむけてみて。

E1

ずんちゃんパン

江戸 明治 大正 昭和 平成

上石田2丁目9-7

上石田の住宅街で営業している昔ながらのパン屋さん。昭和38年創業。楽しい看板があらわすように、種類豊富で美味しい様々なパンで訪れた人が楽しくなるパン屋さん

昭和の雰囲気を感じる「ずんちゃんパン」の看板は、ご主人の友人で甲府市で看板屋さんを営む深澤由秋さんが作ってくれた。見る人がわかりやすいデザインでということ以外は、ほぼお任せで頼み、出来上がったのがこの看板。「ずんちゃん」はご主人の休業時代の愛称で、理由は「ずん胴だったから」というユニークなエピソードも。店内には、ショーケースいっぱい手作りのお惣菜をこだわりのコッペンにサンドした惣菜パンがズラリと並ぶ。パン生地にもこだわり、牛乳と卵をふんだんに使って作ったふわふわのパンはほんのり甘く、優しい味わい。

シャッターのパンダも看板屋さんが描いてくれたもの。パンとパンダをかけた子ども達にも人気の遊び心のあるデザイン。1番のおすすめは「ささみフライパン」シンプルながら癖になるおいしさ。



SH



タイムベイク

江戸 明治 大正 昭和 平成

塩部店 塩部4丁目10-7
宝店 宝1丁目8-18

朝早くから営業しており、種類豊富、昔から地元で幅広い年齢層に大人気のパン屋さん

朝日町で創業、平成2年に現在の塩部へ移転した。創業から数えると60年以上の老舗である。「タイムベイク」の店名は二代目が考案したもの。現在は三代目が活躍中。

菓子パンや総菜パンを中心として豊富な種類があり、ふかふかでほんのり甘い。種類豊富なコッペパンや食パンのサンドイッチは、何処か懐かしく、いつ食べても美味しい。甘じょっぱく平べったいティータイムなど、ここでしか食べられない人気のパンもある。

一つ一つ袋詰めされており、安全で食べやすく、学校や職場の昼食として買って行く方も多く、お昼過ぎには売り切れの商品も出てくる。年末には、年始用の食パンが販売されるが、早めの予約をしないと買えないぐらい人気である。



ひっきりなしにお客さんが訪れる塩部店。店の前の富士見通りは、その名の通り富士山が見えるポイントがある。

AT



ブーランジェリー パン ペパン

江戸 明治 大正 昭和 平成

塩部3丁目1-31

店名はフランス語で、ブーランジェリー(boulangerie)=パン屋さん、パンペパンは、パン(pain)=パン、ペパン(pepin)=種 という意味。ワインに合うパンを買い求める人も多い

平成26年にオープン「どんな時も目の前にある“パン”と真剣に向き合って、食べてくれた人たちに『おいしい笑顔』を届けたい」というオーナーご夫婦の想いがつまったパンがお店に並ぶ。国産小麦をはじめとした素材へのこだわりも魅力のひとつ。

種類も豊富で本格的なハード系のパンから、ソフトで子どもがよるこぶパンやサンドイッチなどなど幅広く、それらがずらーっと並んだ様子は圧巻。もちろんそれらは、老若男女が次々と訪れ、あっという間に売れて行く。



いつも笑顔で迎えてくれるお店の方。「楽しくお買い物出来たかで味の感じ方も変わってくる。」と細部まで心が宿った気遣いもファンを魅了する。

YT



ドレミぱん

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目9-7

甲府中心街、舞鶴通りにある小さなパン屋さん。令和元年に開店12周年を迎えた。オーナーのイメージのもと、看板店がデザインを手掛けた

カラフルな音符が踊る看板が目印となっている“みんなの街のドレミぱん”。

明るく元気をもらえる楽しい歌“ドレミの歌”のように、子どもから大人までみんなに親しまれるお店にしたいという想いを込めて名付けた。

お惣菜パンから菓子パンまで幅広いラインナップで、近隣に勤めている会社員はもちろん、親子連れにも大人気の街のパン屋さん。

特に注目なのは“サバサンド”、クチコミで話題になり、大人気。ご当地シンガーの原田さんがドレミぱんの歌を作っていて、この歌詞にもサバサンドは登場する。

バラスポーツのポッチャの大会に出店した際に作った手作りのフラッグ。クリームパンにコロナにクロワッサン・・・どれも老若男女に愛される定番商品である。



SK

天然酵母パン&カフェ Pied nu (ピエヌ)

江戸 明治 大正 昭和 平成

古府中町952-1

ピエヌはフランス語で素足の意味、気軽に立ち寄りて欲しいという思いが込められている

緑豊かなエントランスの先にある、こじんまりとしたパンとカフェのスペース。ピエヌは決して広いお店ではないものの、こじんまりとしたその空間が、かえって知り合いのお店に来たような居心地のよさを感じさせてくれる。

ピエヌのパンは、天然酵母や米麹、山梨県産や国産の小麦、ゲランドの塩、種子島産さとうきび100%の砂糖、オーガニックドライフルーツなどを使用し、体にやさしく、安全な素材を選び丁寧につくられていて、少し小ぶりなパンはあれこれ食べたい人に丁度いい。ただし、売り切れてしまうことも多いので早めに行くのがおすすめ。

店内のカフェスペースでは焼き立てのパンをドリンクと一緒に味わうこともできるので、武田神社にお参りしたあとや、ふとドライブしたくなった時などに立ち寄って、ほっと一息つくのもいいかもしれない。



EI



ベーカリー ハチ

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝日4丁目5-5

ベーカリーハチ Kofu Yamanashi

朝日通り商店街にある本格派ながら親しみやすいパンが並ぶパン屋さん

仕込みから焼成まで心を込めて手作りすること。を大切に思うパン屋さん。気取らず地域の「ちょっと嬉しいパン屋さん」を目指すオーナーは東京の有名店で修行した経歴をもち、店頭には、親しみやすいのに本格派なパンが並ぶ。バターや小麦の風味豊かな本物の味を感じられる。

普段は朝日通りへ行かない人も、散歩がてら訪れてみてはどうだろう。駐車場もあるので車で訪れることも可能。売り切れ次第終了なので、早めに行くことがおすすめ。

ハチパンはお店のロゴマークのモチーフになっている看板パン。ふわふわの丸い食パンで、いろいろな食べ方が楽しめる。

お店のガラスには、その時々色々な人が描いた絵を見ることができ、地域との温かい交流が伝わってくる。



EI



丸十ベーカリー (丸十山梨製パン)の “グラハムおじさん”

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目28-6

店の壁に大きく描かれたは食パンを乗せたお盆を持ったグラハムおじさん、店のトレードマークになっている。甲府駅南口から徒歩5分、大正創業の老舗ベーカリー

甲府市丸の内に店を構える丸十山梨製パンは、関東を中心に全国各地で愛されている丸十ベーカリーの組合員で

ある。甲州市(旧塩山町)出身の田辺玄平氏は明治34年(西暦1901年)に渡米し、本場のパン作りを学び帰国、東京で「玄平種」というドライイーストを開発、これにより簡単に製パン業が営めるようになり、パン業界に画期的影響を与えた。この大正時代頃を境に、当時主流であった塩味のあるヨーロッパ流のパンからほんのり甘くて柔らかな米国流になっていったと言われている。丸十の由来は、田辺氏の家紋(○の中に十)に由来。丸十山梨製パンの創業者梅本静枝は新し物好きで、噂を聞きつけ田辺氏から職人を派遣してもらい、従業員に技術を習得させ大正10年に開業した。

一番人気のレモンパンは、昭和10年頃発売されて以来変わらぬ美味しさ。店内はパンのいい匂いはもちろん、目でも楽しめる空間になっている。



YS



いなり寿司 清水家

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目18-9

入口の脇にある灯りの看板に書かれているロゴマーク。明治42年創業の老舗いなり寿司店。持ち帰り店内でいただくことができる。常連さんに愛され続ける甲府の味である

創業は明治42年(西暦1909年)、創業110年を迎える老舗である。戦前に柳町で創業、戦後に現在の地へ移転した。現在は四代目ご夫婦がお店を切り盛りされている。いなり寿司のお持ち帰りが人気だが、店内でイートインできるように4人がけの小さなテーブル席が2つとカウンター席がある。

甘辛く煮た油揚げに包まれた小ぶりいなり寿司は、しっとりとしゅーしゅーで酢飯には昆布が混ぜられ、旨味を一層引き立たせている。

営業は朝早く3時半には仕込みを始め、8時頃から持ち帰り可能、県外などへ行く前の早朝に買い求める常連のお客さんもいるそう。店内営業は11時から。

毎月17日(定休日以外)は「いなりの日」。通常、いなり寿司1個70円が、この日は1個60円(取材時点)。手土産に20個、30個とまとめて買っていく常連客も少なくない。インパクト大の外看板も必見!



YT



夢の菓子工房 あっぷる

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝気1丁目3-16

昭和創業の40年以上続く老舗の洋菓子店。りんごを象ったロゴマークは、2代目社長である有泉さんがデザインしたもの

平成10年頃リニューアルしたという、かわいらしいりんごのロゴはひらがなの“あ”の文字を象ったものでもあり、中央下にある点は人の“目”を表している、子どもの顔を象ったものでもある。小さいお子さんを意識して作ったというこのロゴ。あっぷるの店名も洒落た横文字の店名よりも「りんご」の方が小さいお子さんでもすぐ覚えてもらえるだろうと考えたのだそう。子ども達に美味しいケーキを食べてもらいたいというオーナーの気持ちが伝わってくる、心温まるロゴマーク。

自然が育んだ新鮮で厳選した素材を活かし、ひとつひとつ丁寧に心を込めて手作りしているお菓子は、おいしさの中に優しさも感じられる。

お店自慢の夢見山シューは注文を受けてからクリームを詰めてくれる。外はさくさくの食感で中のカスタードはとろ〜り濃厚。一度食べたらリピート必至の一品。



SK

石坂屋



江戸 明治 大正 昭和 平成

本店 朝日4丁目5-4

.....
番重に印された丸に桔梗の屋号紋と「餅菓子 石坂屋」の文字。地元で広く親しまれる昔ながらの優しい味わいの和菓子を作っているお店

創業大正10年(西暦1921年)、まもなく創業100年を迎える石坂屋さん。

現在の社長は4代目で平和通沿いに分店があるほか、アマノパークスにも納品されており、何十年と通いつめている常連客の方もいるほどである。

保存料無添加で、毎朝手作りの和菓子が人気である。また季節商品では十五夜やお正月の団子や餅、2月の切り山椒などは行列ができるほどの人気。焼き団子は午後になると店頭から無くなってしまふ事もある人気商品だそう。実際に食べてみると、非常に美味しい。素朴な味わいでホッとする味で、季節の和菓子「石坂屋」まさにその通りの店である。



店内には定番の和菓子が並んでおり、店頭には並ぶ傍から売れていくほどの人気ぶり。季節の和菓子として山梨では節分の時期に食べる切り山椒は、冬に入るとつい連想してしまうオススメの味だ。

YS

あんこ工房 いつみ庵

江戸 明治 大正 昭和 平成

国母7丁目1-8

.....
あんこ専門の工場が直売する和菓子店。ワンコインで甘さ控えめのスイーツを楽しめる

お惣菜会社の株式会社いつみ家が提

供する和菓子店は平成20年のあんこ工場設立から始まった。平成23年に有限会社いつみ庵が設立され、おはぎ用餡子製造と共に直販店がオープン。平成25年には甲府ブランド認証食品「甲府の証」認定第1号・食品部門の商品として、中道地区のトウモロコシを使用したきみひめとうもろこし大福「きみひめ」が誕生した。おはぎと共に看板商品として人気を博している。

店内では人気商品の「おはぎ」や大福、季節の和菓子などに加えて自宅でおはぎが作れる「あんこ」も販売されている。フルーツや、あんこ、きな粉を使ったプチおはぎの盛り合わせはスイーツ好きにはたまらない。



YT

イルクルソーレ

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝日1丁目10-5

.....
朝日通り商店街にあるジェラート専門店。山梨の新鮮な果物や、搾りたての生乳を使った濃厚な「甲州生ジェラート」を提供している

「山梨の味をそのままジェラートにしました」というイルクルソーレは平成29年の5月に創業した。「甲州生ジェラート」は、素材のもつ本来の美味しさを最大限に生かした「生」を感じるジェラート。白桃や葡萄・苺などのフルーツソルベ系フレーバーには農家から直接仕入れた果物を加熱処理せずに「生」のままたっぷり使いジェラートにすることで、熟れた果実をそのまま食べているような、風味豊かなジェラートとなる。またミルク・バニラ・ピスタチオ・チーズなどのミルク系フレーバーには八ヶ岳の麓にある牧場から、朝搾ったばかりの乳を加熱処理せずに「生乳」のまま使用して作られており、濃厚なミルク感を楽しめるジェラートとなっている。



豊富なジェラートのラインナップはフルーツ王国山梨の新鮮な素材が並ぶ。数ある定番のラインナップに加えて期間限定フレーバーも登場するため、1年中楽しませてくれる。直営店の他にオンラインショップも展開。

YT

桔梗屋

江戸 明治 大正 昭和 平成

甲府本館 青沼1丁目3-11
本社 笛吹市一宮町坪井1928 等

.....
桔梗屋という屋号同様シンプルなマーク。和洋菓子の製造販売、桔梗信玄餅の製造販売、銘菓・県産品卸及び販売を行なう

明治の初め桔梗屋本店を名乗る店が柳町四丁目から桜町に至る横町にあ

り「横町の桔梗屋」と呼ばれていた。その後小尾家の経営により発展、桜町、魚町、山田町などに支店、分店が開設。

創業者中丸熊太郎は、市内の和菓子店「満寿太」で菓子づくりの技を修行した後、親類筋にあたる下連雀の桔梗屋東治郎からのれん分けを受け、明治22年(西暦1889年)に市内旧若松町に和菓子屋を開業。その後変遷を経て若松町(現青沼1丁目)の桔梗屋が甲府本店となった。

桔梗屋の作る桔梗信玄餅は、きな粉をまぶしたお餅に黒蜜をたっぷりかけて食べる銘菓。山梨土産の代表格である。

甲府本館は話の雰囲気溢れる素敵な空間。笛吹市にある桔梗屋工場とアウトレットは、個人は勿論、観光バスもひっきりなしに訪れる人気スポットである。他にもグループ事業は、桔梗屋東次郎、黒蜜庵、ハイジの村、森の中の水族館、そばほうとう郷土料理信玄、ITALIAN TOMATO CLUB、Dolce vita、ハイジの野菜畑、HanaCafe Kikyouなど多数。



PM



金精軒本店

江戸 明治 大正 昭和 平成

太田町6-8

遠く以前は、「金玉堂」という名で店を開業したという。その後、明治25年(西暦1892年)に現在の店舗名である「金精軒」とした。餅菓子の製造を主としており、全国的に有名な信玄餅の他にも季節ごとに提供される数々の団子など様々な和菓子が並ぶ。団子は、黄粉・桜の葉・抹茶・柚子・胡麻・こしあん・栗・苺・草団子・焼き団子と10種も楽しめるから驚きである。

また北杜市・韮崎市に店を構える「台ヶ原金精軒」の初代店主は、現在の店主の祖父にあたる三代目の下で修業をして開業した。独立開業に際して「金精軒」という名を使っても使わなくてもどちらでもよいと快く後押ししたという。



五代目店主にお願いして昔使われていた包装紙も特別に撮影させてもらった。

YT

五味餅菓子店

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央2丁目3-9



昭和3年創業、92年を迎える老舗和菓子店。名物のきび大福は一度食べたら忘れられないと評判の味

名物「きび大福」は創業以来の根強い人気で、五味餅菓子店といえば「きび大福」と言われるくらい甲府で愛される存在である。ほのかに黄色い重たく無いきび餅に、小さめながらアンコがたっぷり入っている。

そして、もうひとつの名物が「焼だんご」。炭火で焼き上げる香ばしい団子のもちりとした食感と、甘すぎないみたらしはまさに職人技。「みたらし」と「あんこ」の2種類がある。県外からのファンも多い。

舞鶴城へのお散歩の際に立ち寄って、団子でお花見などがだろうか。その際はお茶をお忘れなく。



贈り物にする時など綺麗な化粧箱に入れてもらうこともできる。

きび大福は、余計なものが入っていないため1日置くと硬くなってしまいが、焼いて食べるのも美味しいのでおすすめ。

YA



甲府 風月堂

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目1-23

風月堂の歴史は古く、江戸時代まで遡る。江戸後期、大坂屋二代目喜右衛門は老中松平定信に気に入られ、松平家の御用菓子商となる。松平定信から格別な知遇を得て商号に“風月堂清白”の5文字を賜り、屋号を風月堂とする。これが風月堂の始まりである。

風月堂のマークの“扇に月”のデザインにおいては、推測に過ぎないが、松平定信の雅号の一つに“風月扇”があり、これから心象して作られたものであると考えると良い。

時を経て明治5年(西暦1872年)、当時の番頭米津松造が両国若松町に暖簾を分けてもらい米津風月堂(現東京風月堂)を開業。さらに明治27年(西暦1894年)には溝口郡次郎が米津風月堂より暖簾を分けてもらい、甲府風月堂を開業した。

“堂”の文字が特徴的な、昔の甲府風月堂の包装紙。おすすめの「甲斐古餅」は、上質の玄米粉、くるみ、沖繩産最高級の黒糖を使用し、丹念に手造りしている。



シンボル・画像 提供：甲府風月堂・峡陽文庫

SK

澤田屋 (さわたや)



江戸 明治 大正 昭和 平成

本店 中央4丁目3-24
本社 向町375

創業時は“澤田屋”の屋号を使用していたが、昭和17年に常用漢字表が制定された際、旧字の「澤」ではなく新字の「沢」を使用するべきだとされ、“沢田屋”と改めた。しかし平成5年のリニューアル時に「初心に戻りたい」という想いで元々の澤田屋に戻すことに。その時から現在のロゴマークを使用している。

山梨の銘菓「くろ玉」で知られる澤田屋。ただお菓子を売る場だけではなくイベントスペース「espace・櫻町」をつくり、お菓子の作り方を伝えたり、地元の人に開放するギャラリーを併設するなど、山梨の人や文化、地域の魅力を発信するコミュニティスペースづくりにも力を入れている。

本店限定発売「櫻町38番地」は胡桃とキャラメルヌガーを最中で包んだ和洋折衷のお菓子。澤田屋の創業地でもある本店の昔の住所を商品名としている。



SK

Châteraisé

自然のおいしさと、人を想うおいしさと。

シャトレレーゼ

江戸 明治 大正 昭和 平成

本社 下曽根町3440-1
上石田店 和戸店 他

社名のシャトレレーゼ(Châteraisé)は、フランス語で城を意味するシャトー(Château)と、ブドウを意味するレザン(raisin)を合わせた造語で「ぶどうの城」を意味している

昭和29年に、甲府市(旧紅梅町)に今川焼風のお菓子を販売する「甘太郎(あまたろう)」を開店したのがはじまり。

工場近隣の契約農家より新鮮な牛乳や卵を自社工場に直接仕入れ、お菓子づくりを行う「ファームファクトリー」と呼ばれる独自のシステムを導入。

洋菓子・和菓子・アイスクリーム・パン・ワインなど、約400種類の商品を取り扱う。また添加物を使用しない無添加製法の商品や、食物アレルギーに対応した商品、糖尿病やダイエットなど糖質が気になる方のための「糖質カットスイーツ」など、安全・安心なお菓子づくりに取り組む。

令和2年4月時点でフランチャイズ店を含む直売店を、国内533店舗、海外8ヶ国・地域に61店舗展開している。



2019年に都心型新ブランド「YATSUDOKI(ヤツドキ)」を東京・銀座で立ち上げ、都心を中心に出店を進めている。

AM

松林軒豊嶋家

江戸 明治 大正 昭和 平成

国玉店 国玉町295-1
中央1丁目14-3

天保3年(西暦1832年)創業の和菓子店。100年以上の歴史をもつ「月の雫」や「絹多ぐるみ」をはじめ様々な銘菓など地元食材を活かした和菓子を一一つ丁寧に作り続けている

松林軒豊嶋家は、中央1丁目と国玉町に店を構える老舗和菓子店。創業当時から変わらず、大量生産や大量販売をおこなわず、心を込めた手づくりにこだわっているそう。期間限定の生わらび饅頭や鮎焼き、みかんが丸々1個入ったみかん大福、ぶどうが1粒入ったみ

ずみずしい水晶餅、生麩饅頭、やまなしの冬には欠かせない大神さんのガラガラ(お菓子が中に入った甘いお煎餅)など、挙げるときりがないほど様々な、季節や五感を刺激する味わい深いお菓子があり、常連さんも多い。国玉店には和カフェも併設、あんみつやおしるこなどをいただくことができる。

月の雫は、三代目音兵衛が作り始めた。軽く噛むと生葡萄の甘酸っぱい酸味と砂糖の甘さが絶妙なハーモニーを奏でる逸品。絹多ぐるみは、甲斐八珍菓の中からくるみ・ぶどう、さらに上質の黒糖と白ゴマを加え、桃山風餡で巻き焼き上げた甲斐伝統のお菓子。焼き上げた皮の風味と餡の旨みが絶妙な上品な和菓子。



E1



Slow Life (スローライフ)

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝日5丁目6-10

朝日通りと山の手通りの交差点にある洋菓子店。隣接の富士アイス朝日店と共にスイーツを提供

平成25年にオーナーパティシエの北川雄一さんがオープン。当初は洋菓子店としてケーキや焼き菓子をメインにしていくつもりだったが、ショーケースの中にマカロンを入れてみたところ、たまたま15個並べると丁度よく入ることから15種類のマカロンを販売。この選べる楽しさと美味しさが大人気となり、お客さんには「マカロンのおいしい店」として定着した。マカロンだけでなくパースデーケーキ、焼き菓子なども毎日ていねいに手作りされ、リピーターに愛されている。



お店の看板商品であるマカロンは、県内でもトップの品揃えを誇る15種類。すべて個包装で、自分にご褒美のプチ買いにもうれしい対応。ケーキは12種類、焼き菓子は20種類と選ぶ楽しさが止まらない。

YT

清月

江戸 明治 大正 昭和 平成

貢川店 貢川本町9-33
セレオ甲府店 丸の内1丁目1-8-2F 他

こだわりの素材で限定生産される創作菓子を提供。「オイシサはシアワセ」を伝えて約90年

昭和6年に横浜の伊勢佐木町で開店した。その後、東京都内への移転、戦災を経て山梨県へと移り、南アルプス市に本店・工場を構える。現在、山梨県内に8店舗あり、貢川店は昭和63年に直営の2号店としてオープンした。

昭和61年に誕生した「イタリアンロール」は、バターとクリームシンプルな極みを醸し出すロールケーキ。現在までロングセラーを続けてい シンプルで深く豊かな味わいが愛され続けている。近年のヒット商品は大粒のピオーネを2粒入れた「甲州レーズン」。「菓心天創」(菓子の心、天が創る)の基本理念の下、より安全で、より美味しいお菓子作りを目指している。



南アルプス市の姉妹都市でもある小笠原諸島の太陽をたっぷりと浴びて育った「島レモン」を丸ごと使用したレモンケーキは、最近のイチオシなスイーツ。しっとり焼き上げられた、まるやかな酸味とさわやかな香りが立ちのぼる「陽だまりレモン」。

YT

セーヌ洋菓子店



江戸 明治 大正 昭和 平成

中小河原町597

特徴的な文字の看板ロゴデザインは創業から変わらず使っているそう。老若男女に長く愛されるレトロな雰囲気洋菓子店

セーヌ洋菓子店はご主人が7年間の修行後、平成元年にご夫婦で現在の地に創業した。セーヌの店名はフランスを流れるセーヌ川から。創業当時から変わらない店構えはどこか懐かしく、ひとつひとつ丁寧に作られたお菓子が並ぶ。カットケーキにお誕生日ケーキ、ロールケーキ、クレープ、焼き菓子などその種類の豊富さに圧倒される。約50種類くらいはあるそう。しっかりとした安定の味わいに、適度な大きさ、老舗洋菓子店ならではの味が嬉しいお店。



一番人気はサワーチーズケーキ。ショーケースに並ぶ美味しそうなケーキの数々にどれにするか悩んでしまう。次はあれも食べてみたい!と通いたくなるお店。

EI

竹屋あさかわ



江戸 明治 大正 昭和 平成

幸町9-25

創業明治28年(西暦1895年)、125年を超える老舗和菓子店。「地元山梨の味を大切に」をモットーに、数々のオリジナル商品を販売している

伊勢通りを挟んで遠光寺東門の向かい側にある竹屋あさかわ。

季節の商品として「春・夏の商品」には朝摘みにこだわって小瀬町で収穫された完熟イチゴを使用した「いちご大福」や「冷やし葛」「朝蒸し柏餅」が並び、「秋・冬の商品」には「月の雫」「栗蒸し羊羹」などそれぞれに県産品を用いた銘菓が並ぶ。また「通年の商品」には、「かりんとう饅頭」「甲州ころ柿」「武田焼」「ぶどう最中」「おかげさまでらやき」など、いつも変わらぬ新鮮な味を提供している。



全国菓子大博覧会で名誉総裁賞を受賞した「ぶどう最中」はレーズンの旨味が効いた大人の味わい。「いちご大福」は摘み立てが一番甘くおいしいという朝摘み完熟イチゴにこだわって毎日つくられている。

YT

だんごの早川



江戸 明治 大正 昭和 平成

若松町5-7

出来立て・完全無添加を追求するお団子屋さん。元々は350年余り続いたお米屋さんであった

お団子屋さんとしては創業から30年余りであるが、その歴史は古い。元々は、江戸時代から続くお米屋さん。以前は、せんべいを製造～提供する工場も営んでいたそう。その後、規模を縮小し現在は甲府中心地に近い場所でお団子を中心に餅菓子、せんべい、あられなどを提供する。

山梨県の名産品である武川米を自家製粉して造られているお団子は、こだわりの逸品。全部で8種類あり、出来立ての本物の美味しさを味わってほしい。と、完全無添加。時間の経過とともに固くなるので、出来立ての体にも優しい美味しさを、ぜひ、その日のうちに味わってほしい。



お団子の他にも季節ごとに造られる草餅、桜餅、柏餅といった限定品などが販売されている。こちらもリピーターが後を絶たない人気商品。

YT

手作り和菓子 竹泉 (ちくせん)



江戸 明治 大正 昭和 平成

長松寺町4-16

昔ながらの和菓子屋さん。一つ一つ丁寧に手作りされているお菓子が美しいお店

竹泉は、飯田通りに面し、団子や大福、草餅などの様々な美味しい和菓子が並ぶお店。

1974年、初代の岡部泉氏が創業し現在は息子である2代目店主、岡部進一氏が伝統を受け継ぎ、その味を守り続けている。店名の由来は、初代の名前とまっすぐ成長する様子から繁栄を意味する「竹」を合わせたものになっている。店内には様々なお菓子が並んでいて、見ているだけでも楽しい。その中でも焼き団子は、注文を受けてから目の前で焼いてくれるためアツアツを食べることができる。1日に200~300本を売上げ、早い時は昼過ぎに完売するお店の一番人気商品である。



竹泉一番人気の焼き団子。注文を受けてから焼き上げるこだわりで、アツアツもちもちを提供してくれる。一度に20本近く買って頂くお客様もいて、売り切れ必至のため早めに行く事がオススメである。

YS



ちぼりチボン

江戸 明治 大正 昭和 平成

山梨支社 下曽根町3402-3

お菓子メーカー「ちぼりチボン」のロゴマークは富士の見える創業のふるさとを原点に大地の恵みを母のやさしさで包み込むブランドイメージを表現

株式会社ちぼりチボンは平成3年に設立。ホールディングス創業70周年を機に、平成27年9月にブランドロゴマークを現在のものに変更。それに伴いロングセラー商品である「もえぎ野」と「あじし野」をリニューアル発売した。

ロゴマークには“富士山の見える創業者のふるさとを原点に大地の恵みを母のやさしさで包み込むブランドイメージ”を表現している。母が子を想う心。その愛情をお菓子づくりの手本とし、素材選びから焼き上げまで心を込めて作ったお菓子は、おいしくて、楽しくて、健康的でありたいと、ちぼりチボンの全ての社員が願っている。

「もえぎの(左)」

表面にナッツとメレンゲを贅沢に振りかけたサクッと口どける薄焼きクッキー

「もえぎのショコラサンド(右)」

口どけのよいチョコクリームを、ナッツを贅沢に振りかけたサクとした薄焼きクッキーでサンド



SK



早川ベーカリー

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目1-2

甲府駅から徒歩13分の場所にある老舗の洋菓子店。山梨県で初めてケーキとコーヒーを紹介したお店

昭和4年の創業以来、上品でどこか懐

かしい味わいのケーキは、3代にもわたるシェフの美味しさを追求し続ける想いととも、大切に受け継がれてきた。皇室献上のお菓子をはじめ、山梨でしか手に入らないギフトである「甲府ぶどうの葉カステラ」や誕生日ケーキ、アレルギー対応のケーキなど、様々なケーキを目当てに家族何世代にも渡って通い続けてくれるお客様も多いという。地元では「早川ベーカリー」と呼ばれるより、旧町名である「桜町のベーカリーさん」と呼ばれる事も。長きにわたって人々から愛され、親しまれている。

清潔感のある店内には、甘い香りが漂っていてとても幸せな気持ちにさせてくれる。

ケーキの他に焼き菓子も豊富で、お土産にも喜ばれる。



YS



葡萄屋Kofu

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目1-25

山梨の名産品、葡萄を使用したレーズンサンドを中心に“本当に美味しいもの”を提供するお店

平成24年、朝日町の小さなアトリエか

らスタート、山梨の甲府の宝ものである葡萄でレーズンサンドを作り始めたそう。地域との共生を大切に、干しぶどうやブドウジュース、ワイン、サブレなどを取り扱う。

「葡萄屋はお菓子屋ではなく「農産物加工所」と言い切るように、農業に視点を置きぶどうの有効利用とCO2削減などをコンセプトに掲げる。

山梨県産のぶどうから無添加で作った、半生タイプのジューシーなレーズンを使用したレーズンサンドは大変人気で種類も豊富。葡萄の種類による違いも十分に味わえる。お土産の域を超えた素敵な贈り物としても人気が高い。



レーズンサンドは「甲府のテロワールから生まれた良き物」として「甲府之証(こうふのあかし)」にも選ばれている。

EI



アマノパークス

江戸 明治 大正 昭和 平成

本店 甲斐市篠原1433
甲府東店 和戸町880 他

甲府市内に3店舗、甲斐市に3店舗、富士川町に1店舗を展開している美味しくこだわりのある品物を揃えているスーパーマーケット

昭和52年(西暦1977年)に1号店となる

「スーパーあまの」をオープン。会長 天野清春氏が、息子である現社長の天野晴夫氏と専務の天野彰氏と共に作り上げてきた「お・い・し・い」デパート、「お客様に満足していただく」をテーマにしている地域密着型のスーパーである。

お客様の声に素直に耳を傾けるとい業界の前例にとらわれない柔軟な発想で、オリジナリティの高い店になっている。

令和元年現在では敷島店、岡島店、甲府東店、甲府バイパス店、甲府生鮮市場店、パークス竜王店、サンマルシェふじかわ店の7店舗を展開している。

上品な雰囲気店内。お昼前や夕飯前になると、おいしい物を買に来る人で駐車場がいっぱいになる。しっかりと客のハートを掴んでいる証ではないだろうか。



YS



オギノ

江戸 明治 大正 昭和 平成

本社・貢川店 徳行1丁目2-18 他

大きく描かれた「オ」のマーク、ギフトのリボンがかかっているようにも感じられる。甲府におけるスーパーの代名詞的存在

山梨県内を中心に長野、静岡、神奈川で49店舗を展開する総合小売業(ショッピングセンター、スーパーマーケット等)。天保12年に初代荻野市左衛門が「竹の屋」を開業。その後、昭和28年に荻野商店改め「(株)オギノ」を設立。令和2年に創業179年を迎えた。

甲府市内には朝日店、貢川店、下石田店、伊勢店、城東店、向町店、朝気店、上今井店、国母店、山宮店がある。近年ではWEB上でのコンテンツを充実させており、ネットスーパー(宅配サービス)なども展開、買物に行くのが大変な人たちに頼られる存在となっている。電子マネー機能のついたポイントカードの名前は「CoGCa(コジカ)」。

地域密着型のスーパーマーケットを中心に複合型商業施設なども展開。複合型商業施設内ではキッチンスタジオなども運営し、料理教室などイベントの開催にも力を入れている。



YT



いちやまmart

江戸 明治 大正 昭和 平成

本部 中央市若宮50-1
増坪店 住吉本町1188 他

甲府市内に4店舗の他、山梨県・長野県に11店舗を構えるスーパーマーケット

昭和33年に創業。創業社長の息子であった現社長の三科氏は兄から30代で代表取締役を継承した。父・兄が50歳前後と若くして亡くなったことをきっかけに、人生における健康な身体と食生活の重要性を感じ「健康的な食生活が幸せをもたらす」を合言葉に、合成着色料を使った商品は販売しないなど、安心・安全な商品を取り扱うことを大切にし、オリジナルブランド商品も展開している。

甲府市内には4店舗(池田店、徳行店、塩部店、増坪店)、その他山梨県内に7店舗、長野県に2店舗で合計15店舗ある。

ポイントカード「MOREカード」は、ポイントがたまるだけでなく、一定額を購入すると翌月の買物がかなりお得になるクーポン特典もついてくる。

スーパーマーケット単体の場合は「いちやまmart」。他のテナントとの複合店舗形態の場合は「イツモア」と称する。いつもフレッシュを届けるため、センター方式ではなく美味しさ優先のインスタア方式を採用。これにより、焼きたて・揚げたて・切りたての新鮮さを提供している。



E1

天野宣音楽事務所



江戸 明治 大正 昭和 平成

中央2丁目9-19

和太鼓奏者にして全国和太鼓天野流宗家家元、甲府市指定無形文化財保持者、故天野宣ゆかりのアーティストやプレイヤーを擁し日本の芸能/音楽、また<窮理居敬(きょりいきゅうり)>の精神を後世に伝えるべく活動している

天野宣(1934-2014)は、甲府市指定無形文化財保持者の指定や、文化功労賞メルボルン(豪)、コンフラン(仏)、名誉市民章ポー市(仏)、第一回甲府市市民栄誉賞、山梨県文化功労者賞、山梨県県政功績者賞、地域文化功労賞、文部科学大臣表彰など受賞、独自の和太鼓世界を切り開いた人物である。

天野宣音楽事務所は、和太鼓奏者 天野宣(あまのせん)ゆかりのアーティストやプレイヤーを擁し、日本の芸能/音楽、また<窮理居敬>の精神を後世に伝えるべく活動している。

天野宣&阿羅漢の名前で日本各地、そして世界でも演奏活動をする傍ら、出身地山梨県を始めとする全国天野会四十四チーム、延べ三万人にも及ぶ人材育成に力を注いだ。2008年には天野宣芸能活動50周年パーティーが甲府APIOで行われた。



YA

STK (エステイケイ)



江戸 明治 大正 昭和 平成

飯田本店 飯田2丁目4-1-1F
昭和通り支店 国母3丁目12-24

甲府に根付いた総合不動産会社。STKのCMにも登場するロゴマークはシンプルな形とともに「暮らすを、もっと! STK REAL ESTATE AGENCY」の文字

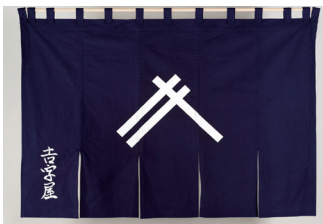
昭和62年設立、甲府に根付いて30年余り、地域を知り尽くした総合不動産会社。新築住宅建築販売実績1,000棟以上にも上る。

ローカルCM「住まいのことならST犬!不動産ならST犬!..なんて犬なの?それは、かわいいから~。住まいのことならSTK♪」の広告が思い浮かぶ人も多いのではないだろうか。住宅の賃貸・売買・戸建・リフォームと幅広く取り扱っているため、様々なシチュエーションの相談に対応してくれるのも心強い。ホームページに色々な情報が掲載されているので、まずはそこから覗いてみてはどうだろう。

STK本社ビルにはデジタルサイネージが設置されている。学生のインターンシップを受け入れたり、椅子を作るワークショップを開催したり、STKで家を建てたオーナーを招待し「オーナー感謝祭」なども行っている。



E1



吉字屋本店

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央4丁目5-29 (旧柳町3丁目)

暖簾に印されているのは吉字屋本店の荷印(きやま)。永禄11年(西暦1568年)創業。創業時の塩の扱いを基に、現在は生活・産業用のエネルギーや人々の移動を支えるモビリティ領域の事業を展開

吉字屋の屋号から意匠をとり荷印「きやま」とする。江戸期には使用されていたことは間違いない。吉字屋の扱っ荷を表すだけでなく、当時のショッピング

ガイド「甲府買物独案内(嘉永七年版)」や地図への記載が確認され、公の印として広く認識されていたことがうかがえる。荷印にあらわされる屋号の「吉字屋」の由来は「敵に塩を送る」の語源になった、戦国時代の塩飢饉の際に敵国越後から甲斐領内に塩を移入した功により、吉字屋初代が甲州金「露巻両金」刻印の「吉」字を屋号に使うことを信玄公から許されたことによる。創業以来吉字屋は暖簾を守り続けている。



暖簾のかかる吉字屋(左)。安政の大地震後に建てられた甲府を代表する堅固な建物であったが昭和20年(西暦1945年)の甲府空襲で焼失し、現在の社屋(右)から戦後のスタートをきり今に至る。

SH



クリーニング志村

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝気1丁目6-16

昭和22年創業のクリーニング店。「洗濯の自由」をキャッチコピーに店舗を展開、甲府を中心に35店舗を構える

クリーニングをどこに出すか?これを世間では『洗濯の自由』と呼んでいるが『早い・安い・きれい』と言えば?答えはなんだ!?しむらっ!』という内容の県内で流れるTV-CMで有名。

近年、日清カップヌードルがご当地CMのパロディCMとして取り上げるなど、その認知度は確固たるものである。

また、サンリオのハローキティとコラボレーションをした「クリーニング志村オリジナル・ハローキティ」などもある。そのハローキティとのコラボレーションは山梨日日新聞にも掲載され、BOXティッシュやスペシャルクーポン券、メンバーズカードなどの様々なアイテムが揃っている。

近年は本社リニューアルやコインランドリー併設店を展開するなど、更なる躍進を続けている。

クリーニング志村の会員に進呈される、ハローキティ・コラボレーションのメンバーズカードはキティファンにはたまらないレアアイテム。



©'76;'20 SANRIO APPR.NO.L610650

YT



少国民社

江戸 明治 大正 昭和 平成

住吉1丁目13-1

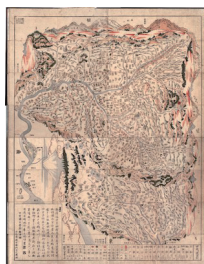
少国民社の活字デザイン。化政文化と言われる江戸時代後期の文化・文政時代、町人文化発展の時期に創業された総合印刷会社

文政7年(西暦1824年)当時富士川水運により一大商業都市であった、甲州

鯉沢にて古久屋(依田)紋右衛門正之が、印刷業を創業した。屋号は「古久紋(こくもん)」である。爾来200余年、11代に亘り事業を継承する。鯉沢に於いての事業は明治年間6代目依田久太郎「古久紋印刷所」まであり、大正3年(西暦1914年)7代目依田初男より中央線開通を機に甲府に進出。当時としては珍しい少年少女(少国民)向けの「山梨少年少女新聞」を創刊し児童文化向上に貢献すると共に、社名を「少国民新聞社」に変更、その後(株)少国民社となる。現在は2005年よりインターネット事業を展開、紙媒体とホームページ制作といった印刷とITを融合させ様々な広報媒体の企画制作を行っている。

新版色摺甲斐國絵図

文政8年(西暦1825年)に発行された「新版色摺甲斐國絵図」(実寸950mm×750mm)。版元依田紋右衛門正之が、自身で測量・製図・製版・設色・木版印刷と取り組み当時の最先端の技術で制作。当時盛んであった身延山詣で等の観光パンフレットである。



<(株)少国民社蔵 無断複製・転載を禁ず>

YT



スタジオビートサーフ

江戸 明治 大正 昭和 平成

蓬沢1丁目700-1

甲府市逢沢、国道20号沿いに構える県内最大クラスのストリートダンススタジオ。ロゴマークのデザインはオーナーが手掛けた

ダンサーのシルエットが目を引くロゴマーク。Bの中にある5つの星は、ストリートカルチャーに大切なDance、Music、Art、Fashion、Originalityを表している。ダンサーシルエットはビートサーフ10周年を記念して各ジャンルのインストラクターを載せたもの。まさにストリートカルチャーを反映したセンスあふれるデザインだ。

スタジオビートサーフには様々なジャンルのクラスがあり、どのクラスも実績・実力を兼ね備えたインストラクターが丁寧に指導する。山梨でストリートダンスを始めるならここが1番!と言っても過言ではない。

ビートサーフのロゴマークは何種類もあり、どれもカッコいい。生徒の年齢層も幅広く、4才から60才以上のシニアまで、老若男女問わず多くの生徒が毎日楽しくダンスレッスンを受けている。



SH



株式会社ダイタ

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目14-13

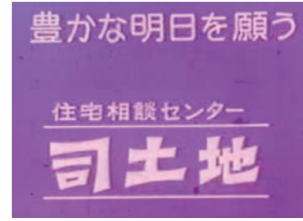
元禄10年(西暦1697年)創業で当時の事業は「地主・金業」。320年以上前から金融と不動産を視野に入っていた

元禄17年(西暦1704年)柳沢吉保が甲府城主となった際には、甲府城下町の再整備に着手。明治36年(西暦1903年)、国鉄中央線の韮崎開通時に、肥料・食塩・石油などの販売を開始。以降、石炭販売・ドイツSB小型電気自動車の販売などエネルギーとインフラにも進出。高度経済成長時期には米穀・肥料・各苗等の販売部門を逐次縮小し、不動産等への業種転換に着手。昭和38年、従来の中込商店を中込産業株式会社に改組し、中込アパートを開設して不動産、賃貸業を開設。その後、昭和43年に甲府駅前にダイタビルを建設、貸オフィスビル業を開始した。現在これらのビルは新世代のビジネスを紡ぐクロスフィールドとなり、さらに令和2年には新ビル「CROSS500」も完成した。

ダイタの社名は、屋号の「大黒屋」と代々引継がれてきた「太右衛門」を重ね合わせたもので、古くから顧客が親しみを込めて呼んでいた。写真は明治時代の中込本店営業部。



YT



司土地

江戸 明治 大正 昭和 平成

宝1丁目19-25

甲府市を中心に賃貸、賃貸管理、不動産の売買仲介を基本に営業展開する不動産会社。昭和46年創業

会社のPRとして製作されたCMは地元ローカル放送で放映され、不動産会社としては画期的なCM放映で当時話題になったという。

内容は、憧れの地球に住まいを見つけるために来たという宇宙人と同時通訳による記者会見から始まり数日後に「ヤット スムトコ ミツカッタ」と住居が見つかって喜ぶ宇宙人はUFOに乗って「ツカサ・ツカサ・ツカサ」と連呼しながら飛び去って行く。YouTubeで見かけるコメントにも「懐かしい!小学生の時に夕方よく見た〜」などとあり、ファンは少なくない。

80年代~90年代の放映と思われるこのCMは、一般的なローカルCMの静止画像製作が多い中、オリジナルストーリー制作かつ動画製作された貴重なものといえる。



YT



DEPOT (デポ)

江戸 明治 大正 昭和 平成

上石田3丁目8-6

「社会を豊かにする仕事」専門のブランディング会社。ロゴデザインはトンボロデザイン若岡さんによるもの。

山梨を拠点に「社会を豊かにする仕事」専門のブランディング会社としてソーシャル(社会性)×ビジネス(事業性)を提唱しているDEPOT。それぞれの領域を深めた専門のクリエイターやプラン達と共に、企画を形にしていく。

主な事業展開として、ブランディング事業ではCI・デザイン・広告・PR・商品やサービス、建築や空間などの企画制作。また、シェアスペース事業ではクリエイターや作家、地域や社会的活動などを対象にした社会を豊かにする様々な創造活動を発展させるための場所づくりとして、シェアスペースの企画・開発・運営を行っている。その対象は幅広く、会社、飲食店、公共施設などなど。「白川・尾白の森名水公園べるが」のリニューアルなども手がけている。

イラストレーター、ライター、デザイナー、カメラマン、建築デザイナー、施工業者などたくさんの専門家(プラン)をネットワークするクリエイティブ集団。



YT



株式会社ニュースコム

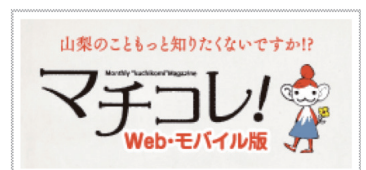
江戸 明治 大正 昭和 平成

相生2丁目15-1

「あなたの暮らしにうらおいを」の言葉通り、新聞の販売のみならず地域への熱い想いを形にしている

昭和31年(西暦1956年)、有限会社山日甲府専売所として柳町(現在の中央4丁目)にて設立。平成13年に創業45周年を期して、社名を「株式会社ニュースコム」に変え相生2丁目へ社屋を移転。新聞販売事業・広告代理事業・ハウスクリーニング事業・牛乳代理店販売・コミュニティスペース経営などを行う。地域の方々と共に歩むことを大切にし、平成14年から地域密着型情報誌「マチコレ!」を発行し続けている。その中には、山梨の歴史や甲州弁などローカルならではの情報も多数掲載されていて、山梨のことを「もっと知ってほしい」という並々ならぬ思いが感じられる。

web・モバイル版も発信されている地域密着型情報誌「マチコレ!」のキャラクター「マチコ」は富士山デザインの洋服に甲州弁、大きな耳が特徴。甲州弁のLINEスタンプも必見。オリジナルの「みんなの新聞交換日記」もおすすめ!



EI



ノア動物病院

江戸 明治 大正 昭和 平成

城東3丁目4-15

犬と猫が並んで描かれているその下には、船の形と一体化したNOAHの文字。ノアの箱船をイメージしてデザインされている

ノア動物病院のロゴマークは「ノアの箱船」をイメージしてデザインされ「ノアマーク」と称されている。林院長はホームページの院長挨拶で「すべての動物たちを救いたい!」という強い想いをもち、人として自分の家族にケアが必要な時に、ごく当たり前のことを動物に対しても同様に行っている。そして、そのくり返しこそが動物たちを「ノアの箱船」に乗せることにつながっていると信じている。(一部抜粋)という強い信念を語っている。ノアマークにはこういった思いが込められている。

平成2年2月に城東センター医院、平成12年3月に八王子病院、平成16年6月には敷島病院を開業。現在も壮大な夢の元に運営している。

Haco bu neco 甲府昭和店のロゴ。「はこぶねこ」は保護猫の救済も兼ねた猫カフェ。気に入った猫がいたら、里親になることもできる。



SH



Vivit Base (ビビットベース)

江戸 明治 大正 昭和 平成

本社 古上条町416-1
サテライト 上石田3丁目8-6

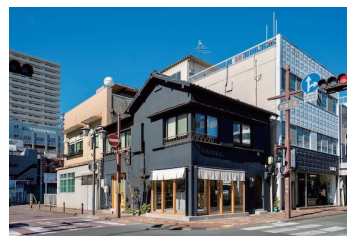
お客さん、社員、ひとりひとりの個性を大切に、甲府の街を活性化するカッコいい不動産会社

平成25年創業、フレッシュで勢いのあつた不動産会社である。社長をはじめ社員ひとりひとりの個性が光り、様々な情報発信を行う。

「プロポーズは指輪より合い鍵で」などユニークなキャッチコピーは秀逸。単に不動産情報を発信するのではなく、魅力的な部屋にするリフォームを行ったり、甲府の街の魅力を体当たりで見つけて発信したり、自分たちでことを起こしたり…この街に暮らしたい!と思ってもらえる街を作りに行く攻めの姿勢がカッコいい会社だ。

ハロウインの季節には社員全員で仮装してお出迎え。あちこちに散りばめられた楽しむ心とおもてなしが、ワクワクするお部屋探しを後押ししてくれるに違いない。

平成31年11月、ずっと閉まっていた元和菓子屋の建物をVivitBaseが熱き想いをもって再生、民泊施設&レンタルキッチン・シェアキッチン「あびすや」としてスタートした。



EI



株式会社マニュアルズ

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目14-13ダイタビル2F

マニュアルズのMを形どったピンクの丸みを帯びたロゴマークは、創業以来使用されているがどこか新しく普遍的。桃やおしりと言われることもあつた

「愛情コミュニケーション」をコンセプトにホームページの企画・制作・管理、印刷物・看板などの各種デザインを行う

マニュアルズ。平成19年に創業し、ダイタビルにオフィスを構えて12年、ホームページ制作を軸にプロジェクトに取り組む会社である。

社名の由来は、マニュアルのように伝わるわかりやすいコンテンツを、みんなで生産する!といった思いが込められている。

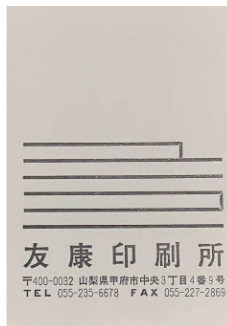
既存の枠に内容を落とし込むプレート制作が増える中、あえて依頼毎にオリジナル性の高いホームページを作る。

制作実績は多種多様で、山梨県内でもエッジの効いた会社や大手企業、さらには東京の有名企業、仙台国際空港なども手掛けている。

ホームページ制作のほかに共同プロジェクトも展開「おてらのじかん」は仏教の宗派を超えて活動する仏教応援メディア。「キモノキブン」は河口湖で富士山をバックに気軽にキモノが着られて海外からの旅行者にも人気。



EI



友康印刷所

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央3丁目4-9

友康印刷所(ゆうこういんさつじょ)は、名刺から伝票まで活版印刷を中心に事業展開をしている

活版印刷(かっぱいんさつ)は凸版印刷の一種で、活字を並べて文章にした活版である組版を作り、それに塗料を塗って印刷する技法、またはその印刷物を指す。

昔の本などはこの手法で印刷されていたものが多いが、デジタル製版が主流となった現代においてはその印字具合の味は貴重なものとなっている。

一枚一枚手作業で刷るという作業工程を経て完成する印刷物は、もはや作品に近い。また、昔から使われている書体で印刷されたものは、おしゃれでレトロだと現在でもファンが多い。その中でも友康印刷所は文字組みの多彩さやデザイン性の高さには驚かされる。また、ロゴやマークのデザイン制作もしてくれる。

ひとつひとつ組み込まれた活字の配列は美しく、アートを感じる。オリジナルの活版製作を依頼できるのもうれしい。まさに世界にひとつだけのオンリーワン印刷物が手に入れられる。



YT

有限会社ライフポート



江戸 明治 大正 昭和 平成

本店 国母2丁目22-5

甲府に根付いた地域密着の不動産会社。甲府市・甲斐市・笛吹市周辺のアパート、マンション、土地、建物の不動産情報を提供、甲府市を中心に約3,000件の物件の管理委託・斡旋を行っている

創業は昭和62年、国母本店と昭和店があり、昭和店では相続支援センターも併設されている。

地域に根ざした長年の経験と約3000

件の豊富な物件管理実績による豊富な情報、日本最大級の不動産チェーンであるアバマンショップ加盟店として豊富な物件を紹介している。また不動産賃貸及び売買の事業に加え、注文住宅(ログハウス・ツーバイフォー・在来工法)の販売も取り扱っている。



ホームページ上の「学生さん向け物件特集」では、大学名を選択すると最寄りの物件情報が得られる機能があり、土地勘の少ない人にも優しいシステムが設けられている。

YT

Rainbow Vocal School (レインボーボーカルスクール)



江戸 明治 大正 昭和 平成

古府中町1428-1

Rainbowの文字とスマイルが一体化したロゴマーク。講師の伊藤さんの原案をもとに、株式会社ジーアール(東京都)がデザイン

「見ただけで幸せになれるような感じにしたい」とスマイルで幸せを表現した

ロゴマーク。スクール名の“レインボー”には「各個人の個性を形にしたい、楽しさや笑顔が溢れるもの」という意味が込められている。どちらの由来にも「歌を楽しむ」ことを大切にしている講師の伊藤さんの気持ちが伝わってくる。

スクールではカラオケ上達から歌に感情を上手く乗せる方法など、個々の目的に合わせたレッスンを行っている。プロを目指している人へは本格的な指導も。歌の上手さを評価するだけでなく、歌と一緒に楽しむことを教えてくれる、そんな伊藤さんの人柄も“Rainbow Vocal School”の魅力の一つだ。



講師の伊藤ひろのさんは現役のシンガーソングライターでもあり、山梨県内外の様々なシーンで音楽活動を行っている。代表曲に「向日葵」などがある。

SH

RelaxationSalon R (リラクゼーションサロン アール)



江戸 明治 大正 昭和 平成

砂田町12-19

Rのロゴマーク。オーナーのイメージをもとに、デザインはフリグラ(東京都杉並区)の山本さんが手掛けている

RelaxationSalon「R」の名前は、3つの“R” リラックス・リフレッシュ・リセット

を提供したいという考えで、その頭文字からとったもの。文字の茶色と右下についている花の緑色は、多くの人が癒しを感じられる自然の色を取り入れている。

サロンは経験を積んだオーナーがひとりで経営するプライベートサロン。がんばる女性の活力チャージサロン!をテーマに身体の疲れはもちろん、肌の悩みのケアや気持ちまで前向きになれるよう、丁寧に施術してくれる。

タイやインドネシアにも赴き資格を取得したオーナーの施術を実際に受けてみると、オーナーの技術のすごさが感じられる。



1番人気メニューのバリ式リンパドレナージュ。強めの力加減で身体のコリや緊張を解きほぐす。自律神経の乱れからくる身体の不調の改善も望める。

SH

YSK e-com



江戸 明治 大正 昭和 平成

湯田1丁目13-2

昭和61年創業の情報通信産業。ICTソリューション(情報通信技術)を活用し、企業の問題を解決する事業を展開

システム開発(自治体・流通業・サービス業・製造業等)やネットワーク構築を

軸としたICTソリューション事業を展開。ほかにもハードウェア販売やパッケージソフト販売、ホームページ制作、データ処理業務、マネジメントシステム認証支援と情報通信事業全般を手掛けている。

CSR活動にも力を入れており、職場体験・インターンシップ、地域清掃、富士山世界文化遺産登録活動への協賛、地元サッカーチーム「ヴァンフォーレ甲府」のスポンサーなど地域貢献の活動が多岐にわたる。

主軸となる事業の「ソリューション」というキーワードは社歌にも反映されている。

社歌は、山梨在住の人気シンガーソングライター 伸太郎さんが作曲を手掛けた。地元のローカルTV・ラジオで頻りに流れておりそのインパクトは絶大。タイトルは、「Solution ～その笑顔が見たいから～」



YT



ダンス&バレエ ショップ・スタジオ ワルツ

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝日2丁目16-20

甲府駅からほど近い、朝日通り商店街にあり、バレエスクールらしい雰囲気のある看板・文字が目を引く、バレエとソシアルダンスのスクール

ワルツは、3歳からシニアまで幅広い年齢の人々が通うスクール。趣味のクラスから本格的なバレエのコース、音大バレエ学校受験コース等、幅広いレッスンができる。クラスは少人数制でひとりひとりきめ細かく、丁寧な指導を行うことを大切にしている。現役で舞台上で踊っている先生、有名なバレエ団に所属し指導者として活躍している先生など多才な講師が、東京から出張しレッスンを行うなど、充実したレッスンが受けられる。

1階には、バレリーナやソシアルダンサーのためのウェアやシューズ・グッズを販売するショップがあり、チャコットブランドを中心としたトシューズ・バレエシューズ・レオタード・Tシャツ・ファンデーション・シニヨン・その他小物・ギフト類など甲府ではここでしか買えないアイテムも揃う。



E1

桜座

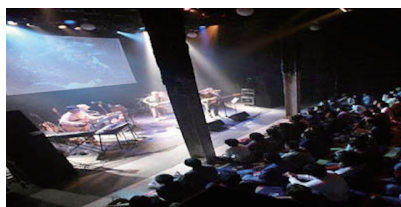
江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目1-7

入口に掲げられた看板。甲府の歴史の中で一旦は途絶えた桜座、甲府の人々の熱い想いにより新たな形で復活を遂げた

富士川に橋のない江戸時代、流通の一大拠点だった甲府では芝居小屋が人気で「甲府で受ければ江戸でも受ける」と言われて一流の役者や芸人が技を競っていた。その熱は明治に入っても続き、明治9年(西暦1876年)、桜町(今の中央1丁目)に三井座(後の桜座)が建てられた。しかしその後、時代と共に流行や表現が変わる中で浮き沈みしながら大正を経て、昭和に至るまで人々に愛された芝居小屋も、活動写真に始まった映画の台頭に敗れ、昭和5年に幕を閉じた。それから75年の時が流れた平成17年、改めて甲府を、山梨を、活気溢れる文化薫る場所にしようと桜座復活プロジェクトが立ち上がり、街の記憶が染みこんだガラス工場を大改築。稼働を開始した。

手を伸ばせば役者に届く程の近さが芝居小屋の醍醐味。会場の収容人数が少ない分、観客1人当たりの料金は高くなるが、自分自身が劇の世界の中にある様な臨場感は、大ホールでは味わうことはできない。



DS



文化のるつぼ へちま

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央2丁目13-20

2013年にオープンした甲府市紅梅通りにある複合文化施設。株式会社ニュースコムが運営。ロゴマークは店長である山本さんがデザインしたもの

1階にあるコミュニティカフェを中心に3階は130インチのスクリーンやPA設備のあるイベントスペース、4階はシェアオフィスと、ユニークな構成の複合施設となっている。

「側から見れば謎に包まれたお店になりそうだったので、ロゴマークは格好つけよう!」とデザインしたそう。ロゴマークの中に紅梅通りの名前を入れたのは昔の町名を復活させたい、記憶に残したいという想いから。店名の「へちま」は老若男女に覚えてもらいやすい植物の名前にしようということと、「へちま」を逆から読むと「まちへ」となり、甲府中心街に足を運んでもらうきっかけのひとつになるようにとの想いが込められている。

1階奥にあるBack Roomは、貸し切りにも対応しており、プロジェクターを使ったミーティングやイベント、ポップアップストアにも利用できる。



SH

studio pellet (スタジオペレット)

江戸 明治 大正 昭和 平成

上石田3丁目8-6

平成29年にオープンした「山梨で自由に選ぶつくる人のためのシェアスペース」。ショールーム+スタジオ、オフィス、カフェの複合施設

山梨での生活を豊かにするような商品・サービスを提供する企業がひとつの場をシェアして、カフェ、ショールーム、オフィスとして運営する複合施設。建築・不動産・コンサルティング・プランニング・グラフィック・フォトグラファー等のクリエイター達ががオフィスシェアしている。pellet(ペレット)とは“小さな塊”を意味する言葉。いくつかの小さな事業体が、ひとつの塊になり空間をつくることで、まちやひとを暖めるような場所というコンセプトを提唱している。



pellet CAFÉでは桃農家Caféラ・ベスカ【農家のジェラート】や葡萄屋kofu【レーズンサンド】といった地域の厳選された素材のスイーツたちが1年中楽しめる。

YT



甲府中央郵便局 の風景印

江戸 明治 大正 昭和 平成

太田町6-10

甲府中央郵便局で郵便の差し出しの際などに受けられる風景印は、長年基本のデザインは変わらず、富士山、農村？、葡萄、水晶などが描かれているようである

風景印(ふうけいいん)とは、一部の郵便局に配備されている消印の1種で、正式名称は風景入通信日付印という。

シンボルに掲載のものは、平成24年10月1日から使用されている風景印のようであるが、それより前のものも「甲府支店」が「甲府中央郵便局」に名称変更になった際に「甲府」から「甲府中央」になったくらいで、富士山、農村？、葡萄、水晶の基本構成は変わっていないようである。

E1

八百創×甲府刑務所 のレタスパッケージ のロゴマーク

江戸 明治 大正 昭和 平成

堀之内町500

甲府刑務所で作られている水耕栽培レタスを八百創が提携しパッケージ化、販売している

甲府刑務所は山梨県甲府市にある、男性受刑者を収容する刑務所。明治2年(西暦1869年)、代官町(現在の甲府市相生)に徒刑(ずけい)場を設置したのが始まり。大正11年(西暦1922年)「甲府刑務所」と改称した。

受刑者に出所後の働き先を確保させることで社会復帰につなげようという思いから、職業訓練を行っており、平成28年から受刑者が野菜の水耕栽培を行う大型ハウスが導入されている。甲府刑務所には現在、約350人の受刑者が服役していて、就職先が決まらないまま出所した場合の再犯率は決まっている場合と比べて3倍高いという。

フリルレタスを大ヒット商品に育てた「八百創(やおそう)」ブランド、イオンスタイル甲府昭和で完売することもあるヒット商品だそう。甲府刑務所のレタス栽培は、栽培用円形水槽で最大1万5,000株のレタスを栽培可能とのこと。



AM

甲府鳥もつ煮



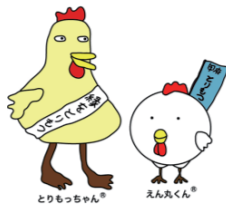
江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目18-1
(とりもつ隊所在地 甲府市観光案内所内)

甲府が誇るご当地グルメ「甲府鳥もつ煮」のロゴマーク。鳥のモツを上白糖と醤油をベースにしたタレで煮詰めた甘辛い風味が絶品

鳥もつ煮は昭和25年頃に「鳥のもつが捨てられてもったいない。なにかなくて美味しいものができないのか。」と甲府市内の蕎麦屋で考案。その後、蕎麦屋から飲食店に広がっていき、今では、ほうとう、煮貝と並ぶ甲府独自の食文化となった。「もつ煮」というと、汁気があって長時間煮込んだものが一般的だが、「甲府鳥もつ煮」は少量のタレを使い強火で短時間のうちに照り煮され、水気が飛んで餡状になったタレで鳥のもつをコーティングし、旨味を閉じ込めて照りを出すという独特の方法で調理される。

砂肝のコリコリ感、しこしこしたハツ、レバーのやわらかさ、ぶちっとした感触のきんかん(産まれる前の卵)。そんな食感のハーモニーが楽しめる。



「甲府鳥もつ煮でみなさまの縁をとりもつ隊」のキャラクター、「とりもつちゃん(左)」と「えん丸くん(右)」。市内のイベントへ頻繁に出現し、子どもたちを中心に甲府市での知名度は高い。

HA

甲府チャンネルの “フジMAX”

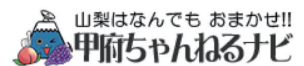
江戸 明治 大正 昭和 平成

伊勢1丁目4-11

甲府を中心とした山梨の観光・店舗を紹介しているサイト「甲府ちゃんねる」のマスコットキャラクター。富士山の形で頭にアンテナを乗せている

「甲府ちゃんねる」は株式会社ニューウェーブカンパニーが運営しているサイトで、山梨の観光情報の発信や、サイト内で紹介されている店舗のクーポンをアプリを通じて会員向けに提供している。(株)ニューウェーブカンパニーはWEB制作・デザイン企画会社で、ITビジネスの総合コンサルティング等、幅広く事業を行っている。本社は東京都町田市であるが、代表者の生まれ故郷である甲府市に支社を構え、地元ならではの地域の魅力を発信し、「移住」についての情報提供はユーザーの反響も高い。

フジMAXのキャラクターはLINEスタンプも発売されていて、「山梨大好き!フジMAX」で検索できる。山梨が大好きな男の子であるフジMAXの得意技は、甲州弁とドヤ顔。



YT

Casa Prisma (カープリズマ)

CasaPrisma

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目1-25 甲州夢小路I棟II

正式名称は山梨県立大学フューチャーセンターCasaPrisma。多様な未来思考の対話の場、地域と大学との協働によるプロジェクトの活動拠点として2018年12月にオープン

平成30年度に、山梨県立大学、拓殖大学及び山梨総合研究所の連携により内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」が採択。この事業は、2大学がそれぞれの特色を活かしながら、地域社会との協働により実践的な教育活動の場を広げていくことで、将来、地域を担う人材を養成していくことを目指す。多様な地域課題の解決に向けた取組をサポートするための様々な場を提供。地域と大学が新たな地域の未来を共創することを目指す。というものである。



2階は人工芝にキャンプチェア、仮想(火を焚かない)ファイアースペースなど、まるでキャンプにでも来ているよう。その上、壁のほとんどにはホワイトボードとスマートプロジェクターが複数配置されているという、まさに未来志向の空間。

YT

Create Future山梨 (クリエイトフューチャー山梨)



江戸 明治 大正 昭和 平成

武田4丁目4-37 山梨大学内

山梨から始まる若者と社会のつながりや社会貢献をテーマに山梨県内の学生を中心に発足

「Create Future山梨」は、代表の齋藤浩平さん(当時は山梨大学大学院教育学研究科修士課程1年)が、平成23年の東日本大震災をきっかけに若者の社会課題に対する関心の薄さに問題意識を持ち、平成25年に設立した。

月に1回程度、大きな社会問題をひとつピックアップして語り合うイベント「みんなのKataruba」を開催。学生が社会について気軽に楽しく考え、語り合う場(きっかけ)を提供することによる学生の社会の諸課題に関する興味の醸成、向学心の向上、様々な地域活動・社会貢献活動への参加拡大などに取り組んでいる。

平成28年に、一般財団法人学生サポートセンターが主催する平成27年度学生ボランティア団体支援事業において、「Create Future山梨」の活動が表彰された。



YT

甲府ん!路地横丁楽会



江戸 明治 大正 昭和 平成

甲府中心市街地

平成26年に作成された甲府ん!路地横丁楽会のエンブレム。作者は楽会員の並木淳氏

甲府ん!路地横丁楽会は甲府中心街の路地横丁を通じて地域資源に目を向け活用しながら活気溢れる街の復活を目的に、平成26年にNPO法人甲府元気エージェンシー内の一部門として発足した。

毎年秋に「甲府ん!横丁はしご酒ウィーク」を開催するなど、楽会員は自腹で路地横丁を楽しみながら路地横丁内に潜む名店の紹介に取り組んでいる。ちなみに、甲府の魅力を全国に広め、まちを元気にしようとする「甲府鳥もつ煮でみなさまの縁をとりもつ隊」は同NPO内の長兄部門に当たる。

甲府中心街の路地横丁の1つ、オリンピック通り。今も中心街に数多く残る路地横丁内には、昭和の香り漂う名店が軒を連ねている。



DS

夢甲斐塾



江戸 明治 大正 昭和 平成

朝日2丁目16-19
(地域コミュニティ広場 花水木)

塾旗をそのままエンブレムにしたもの。塾旗は、夢甲斐塾が自主運営組織へ転換してから最初に入塾した4期生が作成した

夢甲斐塾は、平成13年に「山梨百年の計を考えれば“出る杭を打つ”ような県民性を克服する必要がある」という天野建山梨県知事の想いの元、県による次世代リーダー育成事業として始まり、3年後からは県の事業から離れて自主運営組織として活動している。

研修内容は「自修自得」自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら実践することを基本とし、初代塾長の上甲晃氏は「志高き出る杭となれ」と唱えて15期生までを導き、2代目塾長の白倉信司氏は「志を磨く学校」として16期生以降を導いている。塾旗に記されている「志」が夢甲斐塾の学びの軸となっている。

平成27年9月に開催した横尾山清掃活動。活動テーマの1つに登山を選んだ13期生は、自らゴミの不法投棄という課題を見つけて、自ら清掃活動を実践した。



DS



NPO 未来の荒川をつくる会

江戸 明治 大正 昭和 平成

富士見2丁目2-33

荒川及び荒川周辺の自然環境を守り、県民が安全かつ気軽に川と接することを可能とする環境整備に向けた活動などを行うNPO法人

未来の荒川をつくる会は、荒川と周辺流域の自然環境を守り、安全で気軽に川に触れられる環境を整える活動を通して人と自然の共生する社会づくりの一翼を担い、県土保全と県民の健康と福利厚生の上に寄与することを目的としたNPO法人である。

毎月1回胴まである長靴を履いて荒川にザブザブ入り川底に沈む大小様々なゴミを回収する本格的な河川清掃を、毎年夏には子ども達がお魚の掴み取りを体験できる「子ども水辺楽校」を開催している。



浄水場付近で開催している「子ども水辺楽校」は、子ども達が生きたお魚に触れられる貴重な機会を提供している。

DS

やまなし未来計画

江戸 明治 大正 昭和 平成

武田4丁目4-37山梨大学 B-1号館315

「やまなし未来計画」とは、若者と地元企業が、未来のわくわくする暮らし方・働き方をいっしょに考え、自分らしく幸せな人生をデザインしていくための情報発信プラットフォーム

「やまなし未来計画」は、企業・団体、自治体、大学を含む教育機関の協働により、未来の暮らし方・働き方に関する様々な情報発信を通じて、若者が積極的に「暮らしてみたい、働いてみたい」と思う地域づくりを目指している。

上記の企画発信等行なっているのが「未来計画研究社」であり、山梨大学地域未来創造センター内に設置された山梨県内の企業・団体と大学が連携し、実践的な教育や交流などを通じて学びを深めるための新たなコミュニティ。プロジェクト型授業科目「フューチャーサーチ」の中には、「Miraiプロジェクト」では多数の企業・団体と学生が一緒にプロジェクトを推進。「コウフシンボル500プロジェクト」もこのプロジェクトの1つとして学生とともに進めている。

「フューチャーサーチ」をはじめとした様々な授業科目を、県内8大学の学生が「単位互換」という制度を用いて履修することが出来る。大学の枠を超えた多様な学生間の交流も魅力となっている。

YT



こうふぐらし研究所

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央1丁目6-4 甲府ビジネスラボ内

「こうふく」+「ぐらし」=「こうふぐらし」。平成29年に東京からの移住を機に発足し甲府の「おもしろい」を増殖させるをビジョンとして活動を行なっている

空気がいい・水がいい・野菜がおいしい!人がやさしい!と甲府に訪れているうちに甲府の魅力に惚れて、移住。

地元の人に学びながら、日々妄想~実用レベルまで様々な事業企画を構想し取り組む、こうふぐらし研究所。

甲府の魅力を見る化し、さらに甲府の「おもしろい」を増殖させるため、仕組み~見た目まで広義の意味のデザインを軸に、日々甲府を研究し、発見・発掘・発信・提案・実行を行いコミュニティの創造を行なうことを大切にしている。

毎月実施している「山梨県活性化プロジェクト」にも参画するなど、仲間とともに奮闘中。

こうふ開府500年記念事業の企画提案事業として「コウフシンボル500」プロジェクトを始動、事務局の運営に協力。制作委員会・ボランティアとともに本冊子の制作を全力で行っている。

コウフシンボル500プロジェクト

E1